オリンピックへ連続出場成る 男子

アジア代表決定戦 イスラエルに連勝

オリンピックへの連続出場が成った。日本協会の目指す「男女そろってオリンピックへ」は、実現へ大きく前進した。—モントリオール・オリンピック男子アジア地域代表決定戦は、4月3、5の両日、第1次予選（3月15～21日・台北市、既報）から勝ちあがった日本が、テルアビブへ乗りこんで、イスラエルと対戦、地元の利を活かして食い下る相手を第1戦17—15（前半10—8）、第2戦18—15（前半8—6）で降し、みごとにモントリオールゆきのパスポートを手にした。

日本のオリンピック出場は、ミュンヘン大会（11位）につづき連続2度目である。

林達夫日本協会副会長を団長とする日本チーム（役員3、選手14）は、4月8日午後3時羽田国際空港着のキャセイ航空機で元気に帰国した。モントリオールでの組み合せ（予選リーグ）は4月11日に発表された（＝5頁）

晴れの代表決定は22日？

日本は、第1次予選(台北)の後半からチームコンディションを崩しかけた。3月23日から1週間、沖縄へいったん戻り調整したとはいえ、手ぐすねひくイスラエルとはかなり苦しい展開になるものと予想された。

それだけに、4月6日午後に伝えられた『代表権獲得』の報は、4年前、ミュンヘン・オリンピックに初出場した時と同じような喜びをもって受けとられた。

ちょうど、この日から熊本（山鹿市）で、女子オリンピック候補選手の第2次強化合宿も始まり、なによりの朗報。

女子は、6月28日から7月4日までワシントンで行われる「3大陸代表決定戦」で、アフリカ、アメリカ両大陸の代表と、最後の一つの座を争う。両大陸の手の内は昨年くれの世界選手権で判っており、日本協会が、昭和13年創立以来、宿願の一つとしていた「男女そろってオリンピック出場」は、いよいよ実現しそうである。

男子の代表権獲得で、日本協会は、ただちに、アジア予選から本舞台へと、その照準を切り替えたが、注目の「オリンピック代表選手(役員2、選手12)」は、5月22日を目標に選考が進められるものとみられる。

荒川理事長は、本誌〆切り（4月18日）までに、〝選考スケジュール〟を明きらかにしていないが、すでに選考委員も発表（3頁参照）されており、5月22日に全国理事会を招集、そこで女子3大陸代表決定戦出場チーム（役員1、選手12）とあわせて承認になるものとのみかたが強い。

竹野奉昭・全日本男子監督の話

ベテラン、若手一体となったチームワークで、苦しい戦局を切り抜けることができた。

イスラエルは、西ドイツで強化合宿を行ったり、台北へ日本の試合を偵察に来るなど、この一戦へかける意欲はなみなみならぬものがあった。

日本は、台北での最終戦が最低のデキで、選手たちが、この拙戦を反省、チーム内のムードは、これでかえって高まった。

モントリオールでは、宿願の6～8位内入賞を是非成し遂げたい

木野実・全日本男子主将の話

精神的にも肉体的にも厳しい遠征だった。

それを克服したのは、全員の「ここで負けたら総てがダメになる」という気力だったと思う。

特に、イスラエルとの連戦は、〝2試合制〟になれていないこともあり、第1戦後のプレッシャーは相当なものだった。

各国は着実にレベルアップしており、日本は今後〝楽観〟してアジア予選に臨むことを慎しまねばなるまい。

全国の協力に深く感謝

荒川清美・日本協会理事長の話

全試合乗りこみというハンデにもめげず、選手たちは、本当によくやってくれた。

今年に入ってから「イスラエル強し」の情報がつづき、第1戦に勝ったあとも、気が気ではなかった。選手の斗志もさることながら全国関係者、愛好者の皆さんの支援があってこその勝利だと思う。

全国の協力に厚くお礼申しあげます。

また、選手の所属チームの理解にも、改めて感謝するものです。

今回の予選は、参加国や開催地など問題が相次ぎ、それらを一つ一つ解決して手にした代表権だけに、ミュンヘン前とは別の感がいがある。

本大会では、なんとか、目標の6～8位入賞を果たしたい。

「ハンドボール」

51年5月号（第141号）目次

【表紙写真】モントリオール・オリンピックアジア代表決定戦・日本×イスラエル2回戦、日本の藤中、斗志のサイドシュート（4月5日・テルアビブ）＝AP通信提供

◇モントリオールオリンピックアジア代表決定戦

利いた本田（GK）の得点 第1戦

第1戦は4月3日午後8時45分から、テルアビブのヤデリアル体育館で行われた。審判＝オルセルロデイル（デンマーク）観衆＝四千八百

日本 17（10－8、7－7）15 イスラエル

	【日本】	得	【イスラエル】	得
GK	本田	1	ルツソン	0
GK	柴田	0	レビン	0
FP	木野	0	ガルボビスキー	2
FP	菊池	3	ジルベルバーグ	2
FP	中井	1	アルベルマン	2
FP	藤中	3	マドモニ	0
FP	蒲生	3	ヨシホビッチ	6
FP	佐藤	1	ガルファント	2
FP	佐々木	3	グスン	1
FP	村田	0	ドロスン	0
FP	松原	2	ナサン	0
FP	花輪	0	アルモスニナス	0
PT	（1）	17	（4）	15

後記 東 嘉伸

○……予想以上にイスラエルの動きは鋭かった。

日本は堅さがなかなかほぐれず5分までに2点を失い、先取点は12分になってやっと蒲生が決めた。

先行に気をよくしたイスラエルは左腕・ヨシホビッチの打点の高いシュートと、マドモニのポストプレーを巧く使い分け、15分日本は1－4とリードされた。

しかし、このあたりから、どうにか場内の雰囲気になれ、蒲生のロングと佐々木のカットインシュートなどでポイント、さらに藤中がロング、速攻を決め20分5－5 24分松原がスカイプレーを成功させて初のリードを奪った。

○……このあと2本のPTをうけるなどして差を拡げることができなかったのだが、28分GK本田が相手の速攻ボールを判断よく飛び出してカット、イスラエル・ゴールが手うすとみて遠投を試みるとこれがみごとにゴールイン、10－8で前半を終えた。

結果からすれば、本田のハプニングともいえるこの好ショットがその後の流れを大きく左右する貴重なものになったのである。

○……勢いづいた日本は、後半立ちあがり藤中のゴールで11－8、これで一気にペースを握るかとみえたがイスラエルの粘りも相当なもの。なかばすぎ、菊池、佐々木らの好走、蒲生のロングで20分16－12としたのだが、ここでベテラン木野が5分間反則退場をくいその間に3点を失って、26分16－15と追いこまれた。

○……日本は、まったく苦しくなったが、藤中をマークしていたガルボビスキーが、執ような反則を重ねたため5分間退場となるスキに、佐々木がフェイントからの切りこみで得点、17－15。どうにか勝負を決めた。

終盤、追撃された場面で、PTを含む再三のピンチを防いだGK柴田の堅守も勝因の一つである。

イスラエルでは、186cmのヨシホビッチのプレーが、だんぜん光った。得たるPTは日本1、イスラエル5。（コーチ）

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃 殊勲のゴールに照れる本田 〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

□……いつもなら守りで自軍勝利に一役も二役も買う本田が、なんと攻撃で殊勲をあげたのだから、試合というものは判らない。

「相手ボールをカットした時、誰かが〝ゴール〟と叫んだので、夢中で投げた。それが入るなんて…」。

堺工高（大阪）時代から15年近いGK生活で、もちろん初めて。

しかも、「こんな大事な試合で決まるとは信じられません」とヒーローは、記者団のインタビューにも照れっ放し。

GKの得点は国内試合ではそう珍しくないが、公式国際試合では男女を通じてこれが史上2度目。

最初の記録は、42年1月3日ブカレストでの日本×ルーマニア戦（男子）で、尾形（当時立大、元三景）がマークしている。

モントリオールオリンピック アジア予選日本選手団

GK	①本田　洋	（大阪イーグルス）	㊺	1点
	⑫柴田　正章	（本田技研鈴鹿）	⑧	・
	⑯斉藤将一郎	（日体大ＯＢ）	⑨	・
FP	②木野　実	（湧永薬品）	㊿	212
	③藤中　憲二	（大同製鋼）	㊺	119
	④中井　武三	（大同製鋼）	㊸	97
	⑤佐藤　要二	（本田技研鈴鹿）	㉗	112
	⑥花輪　博	（大同製鋼）	㉓	27
	⑦松原　光三	（大同製鋼）	⑨	9
	⑧菊池　悟	（東京12ch）	㉖	40
	⑨村田　幸男	（三景）	㉓	20
	⑩蒲生　晴明	（中大）	㉖	45
	⑪穂積　豊彦	（湧永薬品）	⑧	18
	⑬佐々木健一	（三景）	⑫	15

監督　竹野　奉昭
コーチ　東　嘉伸

◇役員
第1次予選団長　神田　清
同副団長　伊藤　和夫
代表決定戦団長　林　達夫

・選手名左の○内は背番号
・選手名右の○内は公式国際試合出場数及び通算得点（いずれも今予選終了現在）

後半なかばに勝負決める 第2戦

第2戦は4月5日午後8時45分から、テルアビブのヤデリアル体育館で行われた。審判＝ロデイルオルセン（デンマーク）観衆＝六千

日本 18（8－6、10－9）15 イスラエル

	【日本】	得	【イスラエル】	得
GK	本田	0	ルツソン	0
GK	斉藤	0	レビン	0
FP	藤中	2	アルベルマン	1
FP	中井	4	マドモニ	4
FP	木野	4	ヨシホビッチ	0
FP	佐藤	6	ガルボビスキー	0
FP	蒲生	2	ガルファアント	9
FP	菊池	0	アルモスニナス	0
FP	佐々木	0	ドロスン	0
FP	村田	0	ゲルソン	0
FP	穂積	0	ジルベルバーグ	1
FP	花輪	0	ナサン	0
PT	（4）	18	（5）	15

後記 東 嘉伸

○……「3点差で勝てばモントリオールだ!!」。地元紙の見出しに誘われるように第1戦をしのぐ観衆の出足。場内はラッパは鳴る、口笛は吹かれる、太鼓やカネがひびくという騒々しさ。

イスラエルはスタートから藤中にマン・ツウ・マンだ。

3分蒲生のロングで幸先よくとび出したが、8分、9分ガルファ

ント(185㎝)に連続得点を許し、苦しい展開となった。
この場面を切り抜けたのはベテラン木野の巧技。10分すぎ、目のさめるようなステップシュートを連続して決め、4―3と逆転、そのあと藤中、佐藤の攻撃成功へつないだ。
今シリーズ、昨年末からの右肩故障で絶好調といえなかった木野だが、さすがに要所は逃さない。
○……このあたりから、互いにプレーが荒れはじめた。
日本は相手の反則退場に恵れながら思うように加点できない。やはり、どこかに固さがのぞくし、騒然たる場内に、冷静な判断力を失わせるのだろう。
隣席の竹野監督は大声を出しつづけ、その声は半分つぶれている前半8―6、ともかく、これで"4点の貯金"だ。あと30分……。

○……後半、日本は身体の動きがほぐれた。
5分までに木野、中井が相手ゴールを襲い11―6、このスパートは利いた。
通算7点差、地元ファンはさすがに静かになった。
日本は、主導権を初めて握ってぐいぐいと攻める。当り屋・佐藤が相手ディフェンスのブラインドをつくなどして15分14―8。
○……イスラエルの執念は燃えつきず、PTを巧みに活かして、じわじわと追いあげてくる。14―9 14―10。
再び荒い展開となったが、日本もひるまない。19分藤中の強引なカットイン、21分中井のポストプレー。力と技が巧くかみあって16―10となる。
イスラエルは残り10分から最後の力をふりしぼり、マドモニの決死的ともいえるサイドシュートとPT2本で反撃してきたが、日本は余裕をのぞかせ、18―15で振り切った。


第2戦・蒲生豪快なシュート決める(AP通信提供)

○……この日はヨシホビッチを封じることができたが、ガルファントに9点をとられた。
このあたりが本番での課題である。それにしてもイスラエルはたくましかった。
2月に西ドイツで3週間の強化合宿(注・西ドイツBに20―18、14―26=本誌調べ)をしたそうだが、技術的な面よりも、精神的な強さは、見習うべきものがあった。得たるPTは日本4、イスラエル7。

オリンピック代表選考委員決まる

日本協会は、3、4月の月例常務理事会で、モントリオールオリンピック代表選手(女子は3大陸代表決定戦出場選手)の選考委員について協議、3部合同会議代表を中心とする次の9氏を決めた。
選考委員会には、男子の場合は竹野奉昭、東嘉仲、女子の場合は井蕉、鈴木義男、藤原侑、池田鉄哉のコーチングスタッフが参加する。
なお、田村会長は、選考にあたって、国内トップチームの監督(全日本総合4位程度)からも意向を聞くよう要望しており、渡辺技術部長、竹野、井の3氏で"調整"することとなった。
荒川理事長によれば、男子は「決定」までに二、三回の委員会が開かれ原案作成に慎重を期す。第1回委員会は5月9日夜東京の予定。
女子は5月14日夜大阪で開く
○…選考委員(ABC順)…○
安藤純光、阿部徳之助、勝繁夫、岡前義春、大西武三、佐野和夫、嶋田新太郎、高田日呂美
渡辺慶寿。

意外な不入り物価高響く?

□……一昨年の世界選手権アジア予選の第1戦は、八千近いファンが集まり、今回は、オリンピック出場をかけているとあって、それ以上の大観衆が予想されたが、案に相違して、第1戦は五分、第2戦は八分の入りにとまった。
2試合ともテレビ中継があったからだろうと、イスラエル協会の関係者はいっていたが、どうやら物価高に苦しめられ、スポーツ見物もままならぬ、というのが実情のよう。
タクシー代など、4月1日からそれまでの倍近くにはね上ったという。

モントリオール・オリンピック男子アジア予選

◇第1次(51年3月15～21日台北市)=詳報前号

韓国	29	(12―9 / 17―3)	12	台湾
日本	40	(22―5 / 18―8)	13	台湾
日本	25	(11―9 / 14―6)	15	韓国
韓国	37	(20―11 / 17―5)	16	台湾
日本	42	(18―5 / 24―11)	16	台湾
日本	20	(8―6 / 12―9)	15	韓国

【順位】①日本勝ち点8②韓国4③台湾0。参加を予定されたクウェートは棄権。

イラン協会が設立

日本協会が非公式に得た情報によると、イランにハンドボール協会が設立された。
イランは、首都テヘランで一昨年アジア競技大会を開いており、近い将来、オリンピック開催に乗り出すと云われている。
当然、AHF(アジアハンドボール連盟)加盟国となろう。

男子，五輪予選リーグ組み分け発表

IHF（国際ハンドボール連盟）は，4月11日，バンヤルカ市（ユーゴ）でモントリオールオリンピック男子予選リーグの組み分け（抽せん）を行い，次のように決まり発表した

・予選リーグA組　日本・ユーゴ・ソ連・デンマーク・・西ドイツ・カナダ

・同B組　ルーマニア・ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリー・アメリカ
アフリカ代表

日本，ユーゴ，ソ連，西ドイツなど同組

3勝できるか日本

組み合せをころみる

モントリオールオリンピックは、ミュンヘンとちがい参加国が12ケ国のため、6ケ国づつ2組に分けて予選リーグ、各組同順位同士が対戦して1位〜12位までを決める。

したがって、日本が、目標のベストシックスに食いこむためには予選リーグで3位となり、B組3位と「5・6位決定戦」を争わねばならない。

予選3位になるには、最低3勝が必要。はたしてこの顔ぶれの中からそれだけの勝ち星をあげることができるだろうか。

率直に云うと、ユーゴ（過去7戦1勝1分5敗）とソ連（5戦5敗）には「やや不利」、デンマーク（1戦1敗）には「互角あるいはやや不利」、西ドイツ（3戦3敗）には「互角」、カナダ(1戦1勝)には「有利」である。

カナダ以外から2勝ということになると、やはり照準はデンマーク、西ドイツの両国ということだろう。

どちらも、パワーで押しこんでくるタイプというより、洗れんされたフォーメーションプレーを身上にしており、日本にとっては全盛の東欧勢よりは好ましいハズである。

しかし、デンマークには、昨秋のプレ・オリンピックで13—33と痛めつけられており、出発前「勝てる」と踏んでいた相手だっただけに、このショックは当時かなり大きかった。

その痛手が尾を引いていると星勘定は苦しくなってくる。

西ドイツは過去3敗ながら、27—38、16—24、24—30といずれも乱打戦で、つけいるスキは充分。

ただ、東ドイツ（世界2位）を予選で退けての登場だけに、主力の若手が勢いにのっているのがこわい。

竹野監督は、「むしろ手の内がよく判っているユーゴ、ソ連のうちから1勝、西ドイツ、デンマークのうちから1勝という目標のほうがよいかもしれない」と云っている。現場らしい考えかただ。

たしかに、東欧勢のパワーは圧倒的なものがあるが、俊敏な日本は、彼らにとって、必ずしも戦いやすい相手ではないのである。

ユーゴは、3年前来日した時とメンバーがあまり変っていないと伝えられ、ソ連は、昨秋プレ・オリンピック（日本13—28）での対戦経験が活きてくる。

いずれにせよ、ここまでしぼりこまれれば、各国の実力は紙一重である。キャリアの浅いカナダといえども軽視は許されない。

コーチングスタッフは、西ドイツ以外の各国の試合ぶりをおさめたヴィデオテープを保存しており、これからじっくりと研究するという。好結果を期待したい。

組み分けの発表は、早くても5月初旬とみられていただけに、この繰りあげは、策戦を存分にねれることとなろう。

試合日程は公表されていないが日本の対戦順序は、ソ連（7月18日）、西ドイツ（20日）、デンマーク(22日)、ユーゴ(24日)、カナダ(26日)になるものとみられる。

一方のB組は、金メダルを狙うルーマニアにとって有利な顔ぶれである。

手強いのは、前回銀メダルのチェコスロバキアよりも、上り坂のポーランド、大物ぐいのハンガリーではなかろうか。

それでも、今のルーマニアの実力なら、少々苦しい場面はあっても波乱とまではいくまい。

なお、女子は参加6ケ国の総当り戦である。（杉）

モントリオールオリンピック出場国

◇…男子（12ケ国）…◇

・日本（M⑪，世⑫）
・ルーマニア（M③，世①）
・ユーゴ（M①，世③）
・チェコ（M②，世⑥）
・ハンガリー（M⑧，世⑦）
・ソ連（M⑤，世⑤）
・西ドイツ（M⑥，世⑨）
・ポーランド（M⑩，世④）
・デンマーク（M⑬，世⑧）
・アメリカ（M⑭，世×）
・カナダ（データなし）
・アフリカ代表は4月21日決定

◇…女子（6ケ国）…◇

・東ドイツ（世①）
・ソ連（世②）
・ハンガリー（世③）
・ルーマニア（世④）
・カナダ（データなし）
・3大陸代表は7月4日決定

（注）（　）内Mはミュンヘン・オリンピックの順位
男子の「世」は49年3月の第8回世界選手権順位
女子の「世」は50年12月の第6回世界選手権順位

アメリカ、不戦勝

モントリオール・オリンピックアメリカ大陸代表決定戦は、アメリカ×アルゼンチンの顔合せで行われる予定だったが、アルゼンチンが棄権、アメリカが労せず代表権を手にした。

アメリカは、一九三六年のベルリン・オリンピック（11人制）にも出場しており、ミュンヘンとあわせて、これで連続3回目の〝皆勤〟である。

故ホルレ氏の後任 ワング氏に決まる

IHF(国際ハンドボール連盟)は、2月24日ガンのため他界した審判・規則委員長、E・ホルレ氏（スイス）の後任として、同委員のカール・E・ワング氏（ノルウェー、45才）を決め、発表した。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

アジア予選突破　二つの視点

◇……長く、決して楽な道とは言えなかったが、ミュンヘンに続き晴れて全日本男子が、オリンピック出場権を獲得した。

ほんとうに"うれしい"の一言に尽きる。

かなりスリリングな試合が多かったアジア予選。しかし、今回もとにかく勝った。

でも、それだけでは誰もが満足しなくなっているハズである。

◇……今回のオリンピックの予選組合せ（＝5頁参照）を見ると、日本はA組でユーゴ、ソ連、デンマーク、西ドイツと強敵ばかりだ。

正直に言って、これらの国を破るのは過去のデータからすれば非常にむずかしい。

しかし、それを克服するのが、アジア代表・日本の課題ではないだろうか。

ハンドボールに限らず、日本のスポーツチーム（選手）は、桧舞台に立つと、実力を存分に発揮できないと云われる。

本番でも執念を

予選突破で燃焼しつくしてしまうのだろうか。

予選でみせた気力、執念をみせれば、道は開けると思うのだが。

◇……日本のヨーロッパ対策も、完全とは云えないまでも、かなり研究が蓄積され、実戦にも生かされてきている。それを、何とか本番で爆発させて欲しいのである。

ミュンヘンの時は、「初」ということで、たぶんに、それだけで評価をうけた。今後は、内外ともに見る目が厳しくなってくるのではないか。

オリンピックに出ることだけで満足せず、どうか、全力をつくして欲しい。

あとは前進するのみである。

「頑張れ!!」。心の底からそう叫びたい。

（青木敬子）

□……帰国した選手たちに聞くとどの試合も「苦しかった」が負ける気はしなかった」そうである。

たしかにスコアブックをのぞくと、リードされていても余裕のある展開を示している。

だが、この優位はいつまでつづくだろう。

朗報にわくなかで、いささか酷なみかたかもしれないが、アジアでの"独走時代"は、今回をもって終ったのではないか、と私は思う。

□……アジア諸国にとって、世界選手権やオリンピックへ出るために、どうしても果たさねばならぬことがある。「打倒日本」だ。

日本を押しどけない以上、彼らに陽は当たらない。

日本に追いつけの目標は、はっきり追いこせに変っている。

その兆候は、2年前の男子世界選手権決勝（対イスラエル、1勝1分）でのぞき、最近の韓国勢の日本チームに対する自信たっぷりな試合ぶりでもうかがえる。彼らは国内強化だけでここまで迫ってきたのだ。

終った？独走時代

□……もちろん、そうした"反抗"に対する日本陣営の努力、精進もなみなみならぬものがある。

まだまだ余裕は残っているかもしれない。

しかし、そうした差など、詰められはじめたら、アッという間だ。

アジアにおける実施国の急増も見逃すわけにはいかない。

IHF（国際ハンドボール連盟）加盟国だけでも13ケ国。未加盟国を加えれば20ケ国に近い。

特に、全日本(男)が、これまで4連敗の中国は、"復活"後も相当な実力を持っているようだ。

モントリオールが明けたらじっくり"アジア対策"をたてるべきであろう。

（杉山　茂）

9日に全日本男子紅白戦　東京体育館

日本協会は、5月9日午後3時30分から東京体育館で、「男子モントリオール・オリンピック候補選手紅白試合」を行うことに決めた。

オリンピック候補選手19名（GK3、FP16）全員が出場の予定。

入場は無料だが主管の東京協会は当日午前10時から行われている全日本実業団男子予選リーグ第2日（有料）に引きつづいての観戦を望んでいる。

一気にあがった女子のムード

女子オリンピック候補チームの第2次強化合宿（51年度第1次）は4月5日から18日まで、熊本県・山鹿市勤労青少年体育館で行われた。

男子のオリンピック出場が一足先に決まって、選手たちのムードは、いやがうえにもあがり、練習のピッチも早まって、コーチングスタッフを満足させた。

合宿なかば、佐賀遠征という試みが採られ、井監督は「モントリオールでは、場合によっては選手村から240Kmはなれた衛星都市に出かけて試合しなければならない。どんな条件でも全力が出せるようにしたい」と、本番への意欲をのぞかせた。

第3次合宿は、5月16日から四日市市の予定。

▼**全日本女子公開試合**（4月11日　佐賀県神埼農高体育館）

全日本女子 26（11－4、15－4）8 佐賀一般女子選抜

FP4選手、候補を辞退

女子ナショナルチームは、オリンピック候補選手のうち、桜庭郁子（日立栃木）、菊地春美（東京重機）、額賀美恵子（日本ビクター）、有賀もと子（東北ムネカタ）の4選手（FP）が辞退届を提出、受理したことを明きらかにした。

桜庭選手は一身上、他の3選手はケガのための辞退だが、これで15名のFPが11名に減った。

補充については、5月8、9日名古屋で開かれる第17回全日本実業団選手権予選リーグ（本誌22頁所報）の結果をみて、"判断"するとしている。

辞退した4選手のうち、菊池、額賀、有賀はいずれもヒザの故障が原因と伝えられる。倒れこみシュートの高度化とともに女子トッププレイヤーの宿命的な疾病になりつつある。この時点で4人を失うショックもさることながら、女子界全体の課題として、予防研究を進めるよう望んでおきたい。

土曜の集い盛況



楽しそうな表情!!

○……こんなに楽しいハンドボールの試合があっただろうか。

こんなに楽しいハンドボールの練習があっただろうか。

誰もが笑ってボールを投げている。嬉しそうに走っている。

日本協会の新路線、市民ハンドボール企画「土曜の集い」の第一夜は、予想以上の盛況をみせた。

○……4月17日午後5時、会場の東京青少年総合センター（旧・東京オリンピック選手村）には、この日を待ちかねていたように、続々とハンドボール愛好者が詰めかけた。

「友人たちとまとまって来たのですが、ボールなんか持参しなくていいのですか」「どうぞ、どうぞ」「僕たち、まだ1年くらいしか経験ないのですが」「どうぞ、どうぞ」——たずねる声も、答える声も、どこか、はずんで聞こえる。

○……いよいよ幕があいた。全員気ままな服装がいい。簡単な説明のあと試合希望のグループと、指導を受けたいグループに分かれる

コーチングスタッフとして、イスラエルから戻ったばかりのオリンピック候補選手が、鮮やかなオレンジ色のユニホームで姿を現わす。

がぜん、彼らのレッスンは〝人気種目〟になった。

菊池(早大OB)、蒲生(中大)が壁を打ち貫くようなシュートをみせると驚きの声があがり、村田（三景）が、切れ味鋭いフットワークを披露すれば「とてもマネできないよ」と中学生クンが目を丸くする。

本田（大阪イーグルス）は、汗びっしょりでのGK実演だ。＝写真右



○……集った人143人。このうち女子59人。70名程度集れば、とみていただけにあわてて体育室を借り足した。

年令は15才の中学生から、33才の主婦まで。職業も多彩である。

「技術を身につけたくて…」「多くのハンドボール愛好者に会いたくて…」というのが、参加目的の大半で、「ハンドボールをいちど経験したい」「ただ、むしょうにハンドボールがしたくて」という人も多い。

みんなが待っていた企画だったのだ。

○……この催しをはじめるにあたって日本協会（普及指導部）は、自信があったわけではない。

むしろ、おそるおそる開いたといったほうがいい。

「何人ぐらい来てくれるだろうか、当日が近づくにつれ不安が増した」と勝繁夫部長。

荒川理事長も同じ思いだった。駒沢でドロット×大崎電気戦が行われているにもかかわらず、足が向いたのは、こっちだった。

熱気にあふれた会場をみて理事長の顔は、くしゃくしゃになった。

○……予定の時間はアッという間にすぎた。「今度はいつですか」サヨナラに代わるこれが別れの挨拶だ。

人かげのなくなった会場にいくつかの課題が残る。

「参加者は圧倒的に15～25才が多い。青年・壮年層を増やすにはどうしたらいいだろう」

「ゲームを楽しみたいという人たちには満足してもらえたのか」

「主婦コースというものを作ってみては……」

「2回目以降の案内をどうする」「ケガ人がでた時の対策が心もとない」——結局、もういちど振り出しへ戻して、内容に検討を加えることになった。

だが、誰の表情も張り切っていた。143枚の参加票が、元気づけているのである。

○……第一夜の成功を聞いて、早くも、二、三の地方協会普及担当者から見学の希望が寄せられた。

第三土曜の夜は、全国いっせいにハンドボールの集い!!

この壮大な構想は、たくましい第一歩を印した。

第2回は、5月15日午後5時から7時まで同所である（詳報39頁）

カメラ・山田真市



←かつての全日本選手・鈴木功子さん(左)と宇井敬子さんも「主婦」として参加。

日本勢、ドロット（スウェーデン）に勝ちこす

新シーズン開幕国際試合

新シーズン開幕を告げる恒例の国際試合は、スウェーデンから昨年度チャンピオン「HK・ドロット・ハルムスタート」（ゲランソン団長ら役員5、選手15人）を招き、4月11日から19日まで、各地で5試合を行った。

ドロットは、国際キャリア豊かなベテランの好リードと、若手のパワーが巧みにとけこんだ好チームで、クラブ歴40年を誇る北欧の名門にふさわしい試合ぶりをみせたが、日本側も、オリンピック連続出場の祝勝ムードで盛りあがり、湧永薬品、大同製鋼が鮮やかな勝ち星をあげ、最終戦で顔をあわせた全日本も、地力を示して、3勝2敗と勝ちこした。

来日したヨーロッパの一流チームに日本側が勝ちこしたのは、48年4月のFA・ギョッピンゲン（西ドイツ）～3戦2勝1敗～以来。

ドロットは、4月21日午後10時45分羽田国際空港発の日本航空機で帰国した。

スウェーデンチームの来日は、46年9月の同国ナショナルについで2度目だった。

湧永、前半のリード活かす

ドロットの第1戦・湧永薬品（大阪）との試合は、4月11日午後2時30分から、大阪市中央体育館で行われた。審判＝岡本克弘、光島磯雄、観衆＝二千

【湧永】	得		得	【ドロット】
福井	0	GK	0	トーマソン
今井	0	GK	0	アスバーグ
津川	3	FP	3	H・ヨハンソン
木野	3	FP	2	ハンソン
穂積	8	FP	5	アブラハムソン
高橋	2	FP	2	ヤコブソン
戸田兄	0	FP	1	ブローマン
松本	3	FP	1	グンナー・ルンド
山本	4	FP	3	クリングバール
戸田弟	1	FP	0	G・ベントソン
藤本	1	FP	1	B・ヨハンソン
森	0	FP	1	バイストリョーム
(1)	25	PT	19	(4)

湧永薬品 25（12－8 / 13－11）19 ドロット・ハルムスタート

後記

村田 弘（大阪協会副理事長 元全日本男子監督）

○……前夜飛行機の遅れから東京に泊ったドロットは試合当日の朝大阪入りをするという最悪のコンディションであった。

湧永薬品も主力選手の木野、穂積が2日前にアジア予選を終えてイスラエルから帰国したばかりで全員そろっての練習ができず両チームともベストでゲームに臨めなかったことは残念であった。

ドロット、湧永チームは両国を代表する強力チームであり、ひさしぶりの国際試合とあって大阪のハンドボールファンは大いに期待した。

試合のカギはドロットの長身を利しての攻撃－強烈なシュート力が湧永の防禦陣をどう突き破るかドロットの疲労がどうゲームに影響するかにあった。

湧永としてはドロットの高い防禦壁をどんなコンビネーションで突破するか、疲労からくる帰陣の遅れをついての速攻がでるか、国際試合の経験不足の若手組がどう立ち向うかが勝負とみえた。

○……前半、ドロットはフェイントと判断の良さによる変化とスピードにあふれるパスワークをみせ湧永ディフェンスのツメの甘さも手伝ってミドルシュートとポストプレーからの強引なシュートを決め11分6－3とリードした。然ししだいに疲れから動きがにぶくなりはじめ、ゴール前のパスワークが乱れ、その上ゲームに馴れてきた湧永の早いつぶしに会いミスが目立ち、思うようにシュートに結びつけず残り19分で2点しか得点できなかった。

○……これに反し湧永は、開始から10分間国際試合の不馴れと高い壁にげんわくされていた。特にGK・FPともドロットのシュートにタイミングが合わず得点を許した。その後ゲームに馴れおちつきもでてきて相手の攻撃ミスからの速攻で16分に6－6においついた

ドロットの一線防禦からのディフェンスはあまり鋭いとはいえなかった。湧永がローリングオフェンスで攻撃しドロットの精彩ないプレーにつけこんで着々と加点して13－8で前半を終了した。特に木野の好プレーが光った。

○……後半、湧永は木野がコントロールタワーの役割に回り、相手ミスからの速攻、スカイプレー、早い動きからのショートパスとコンビの湧永らしい多彩な攻めで試合を進め加点した。特に穂積の動きとスピード豊かなシュートはみごとで13分までに彼一人で5点をマーク、湧永は15分21－13とリードした。

ドロットも、そのあと二本のPTをふくめて連続4ゴール、20分17－21と盛りあげたのだが、やはり疲れからか、せっかくの動きもフットワークが思うにまかせないようで組織的な動きがうまくいかず大きなミスが目立つようになった。ただ強引な単発シュートにたよりはじめ、立ちあがりの巧さはカゲをひそめた。

後半両チーム共組織防禦が悪くお互のミスから得点に結びつけ12－11で終った。

○……全試合を通じていえることは、コンディションの悪さからか意欲的に今一つものたらず、たくましさも感じさせない盛り上りの少ないゲームであった。

特に得点総数が44点にもなったのは攻撃、防禦のリズムが悪いことを物語っている。

疲労のためドロットの特徴を見られなかったのは残念であるが、湧永の山本、藤本、戸田弟らの若手組が心配することなくチームにとけこんで立派にプレーできたことは今後に明るい材料となった。

いつもながら外国チームは、秀れた腕力から強引なシュートを放つのを特色とし、判断力の良さによる変化とスピードに富んだパスワークは学ぶべきであると思うがドロットも、要所ではこうしたプレーをみせ、さすがスウェーデンナンバーワンと思わせた。

ドロット後半に自滅 ──大同戦

ドロットの来日第3戦、大同製鋼(愛知)との試合は、15日午後6時30分から名古屋の愛知県体育館で行われた。観衆＝三千五百　審判＝稲石三二、西川勤也、

大同製鋼　29（14―7、15―14）21　ドロット・ハルムスタート

得	【ドロット】		【大同】	得
0	トーマソン	GK	柳川兄	0
0	アスベルグ	GK	倉谷	0
9	H・ヨハンソン	FP	藤中	6
0	ハンソン	FP	柳川弟	3
6	アブラハムソン	FP	中井	4
3	クリングバール	FP	松原	7
1	ヤコブソン	FP	花輪	3
0	B・ヨハンソン	FP	北村	2
1	ハッセルベルグ	FP	野田	3
1	グンナー・ルンド	FP	大原	1
0	バイストリョーム	FP	中本	0
0	B・O・ベントソン	FP	清田	0
21	（4）	PT	（3）	29

後記

改田　智洋（朝日新聞名古屋本社運動部）

○……「大同は最後まで落着いて真けんに試合していた。

それに比べスウエーデンは、後半で落ち着きがなくなり、チームワークもとれなくなったようだ。

ユニークなチームだという感じはうけたが……」。ハンドボールはあまり知らないという女性が、試合終了後、こう話していた。

両国チャンピオン同士の対戦は日本に軍配があがったが、それはこの女性の言葉どおり、ドロット・ハルムスタートの自滅だったといえる。

○……大同が、藤中、中井をはじめナショナルプレイヤーもしくはその経験者7人を擁すれば、ドロットも公式国際試合出場83回というベテラン、B・ヨハンソン（ミュンヘンオリンピック代表）を筆頭に、スウェーデン・ナショナル所属のプレイヤーが6人。

まさに両国を代表するチーム同士の対戦にふさわしい豪華な顔ぶれだった。

試合展開も期待に反さない熱戦で進んでいった。

アブラハムソン、B・ヨハンソンが前で当たり、他の選手もつねに動くゾーン・プレスのみごとなディフェンスをみせるドロット。

それを藤中を中心として中井、柳川弟、松原、花輪、これに前半の中盤からベテラン野田が加るという大同のメンバーが、チームワークのとれた速い動きで攻めて、得点する。

○……するとドロットは、大同のディフェンスが、ちょっと引き気味なところを巧くついてH・ヨハンソンが中央、左45度などから、たてつづけに矢のようなシュートを放った。

大同が得点の上では、つねに先手をとってはいたものの、3点と開いたのは、前半の終盤の一度だけ。

しかし、それもすぐに詰められた。互いに負けられないという闘志をむき出しにしたプレーが随所にみえて、非常に盛りあがりのあるゲーム展開となった。

○……この前半で、大同はH・ヨハンソンに、フリースローライン近くから何度も、さらにクリングバールにも二度シュートを射たれた。同じ失敗を二、三度ならずも繰り返したのはいただけない。

ディフェンスが下がりすぎていたためと、GKとのコンビネーションがとれていなかったためだろうが、射ってくると判っていながら、前で当たらないのは大同らしくない。

野田が前で当たって、相手の攻撃の糸口をつぶしたばかりか、パスカットして、ピンチをチャンスに切り替えたプレーをみせたが、他の選手にも、こういった積極的なところが、ディフェンス面でも欲しかった。

○……後半に入ると、中浜監督がベンチから「前で当れ。逃げるな」と大声で、何度か指示をだした。

これでムードはよくなった。逆にドロットは、審判の判定に文句をいうなど冷静さを欠いてきた。

そして、前半8点とチーム得点の半数以上もかせいでいたH・ヨハンソンが退場をくった。

これで、ゲームの流れはがらっと変わった。

H・ヨハンソンが退場している間に、大同は2点を加え、初めて4点差をつけた。

こうなるとドロットは、ますます乱れてきた。もう、持てる力を発揮できる状態ではない。

大同の思うような試合運びに、点差は開く一方。

H・ヨハンソンが、終了7分前に2度目の退場（5分間）をくってしまっては、どうしようもなかった。

○……ドロットは、いいチームだった。

ただ、審判は絶対的である、というスポーツの基本を忘れてはいなかっただろうか。

この試合の前に、チェコスロバキアのバスケットボールチームが松下電器と対戦したのを三度観たが、審判の判定に不満そうな顔はしても、自分の理性を失うまでの態度はみせなかった。

スポーツで、「勝つんだ」の気持ちがなければダメだが、それが露骨にでると、かえってマイナスになるものだが……。

本田技研、終盤に乱れる

ドロットの第2戦、本田技研鈴鹿との試合は、13日午後6時30分から四日市市緑地公園体育館で行われた。

ドロット　24（14―7、10―13）20　本田技研鈴鹿

○……前半は1点を争う好ゲーム。

本田技がモントリオール・オリンピック日本代表候補の佐藤を軸に得点すれば、ドロットも、激しい闘志で迫り、すぐ追いあげる。

しかし、シュートの正確さでやや勝った本田技が前半1分を残して連続3ゴール、3点のリードで後半につないだ。

○……後半になると、さすが体力に勝るドロットがじわじわ追いあげた。

逆に本田技は疲れが目立ち、防御が甘くなる。

このスキを縫って、ドロットは残り10分から2本のPTをはさみ連続5ゴールを奪うハッスルぶりで一気に逆転。

そのあと本田技に得点を許さず24―20で快勝した。

（中日新聞戦評から）

大崎電気、惜しい試合落とす

ドロットの第4戦・大崎電気（埼玉）との試合は、17日午後6時40分から東京・駒沢屋内球技場で行われた。審判＝佐野和夫、岡前義春（ともに国際審判員）観衆＝千八百

ドロット 20（12−10 8−8）18 大崎電気
ハルムスタート

後記　竹野奉昭（全日本男子監督）

○……ドロットは、最終戦の全日本戦に備えて切り札のハンソンとB・ヨハンソンをエントリーからはずしたばかりかH・ヨハンソンも、あまり起用しなかった。

リードマンはクリングバルでスピードはないが、巧みな配球によって新人を動かし、北欧ハンドボールの名残りを見せた

というのは、最近の北欧勢は過去のポストプレー多用から脱け出し、ステップからのロングや、強引な走りこみというパワー型に移っており、ドロットもこの流れに乗っていたからだ。

【大崎】	得		【ドロット】	得
福本	0	GK	トーマソン	0
		GK	アスバーグ	0
飯田	5	FP	エリクソン	0
東	2	FP	G・ベントソン	2
佐藤	2	FP	H・ヨハンソン	3
井手	2	FP	アブラハムソン	1
前渕	2	FP	ヤコブソン	2
大熊	3	FP	ブローマン	2
斎藤	1	FP	グンナー・ルンド	2
橋本	0	FP	バイストリョーム	1
佐伯	0	FP	O・ベントソン	2
椿原	1	FP	クリングバール	5
	18（1）	PT	（4）	20

ドロット選手用

団長		O・ゲランソン	(51才)	ドロット会長	
秘書		O・ハグストリョーム	(26)	ドロット理事	
監督		I・ペターソン	(54)	ドロット副会長	
ヘッドコーチ		K・E・アイネルト	(54)		
コーチ		T・オルソン			
選手					
GK	①◎	M・トーマソン	(31)	182cm	75K
	⑫	L・アスバーグ	(22)	187	87
FP	②◎	H・ヨハンソン	(28)	200	90
	③◎	B・ハンソン	(25)	178	69
	④	J・アブラハムソン	(20)	187	85
	⑤	T・クリングバール	(26)	175	78
	⑥◎	L・B・ハッセルバーグ	(25)	178	75
	⑦	G・ベントソン	(20)	180	80
	⑧	E・ヤコブソン	(28)	180	76
	⑨	E・ブローマン	(30)	178	78
	⑩◎	B・ヨハンソン	(34)	200	90
	⑪	H・G・ルンド	(19)	200	91
	⑬	M・バイストリョーム	(20)	177	68
	⑭◎	B・O・ベントソン	(32)	175	75
	⑮	M・エリクソン	(21)	180	75

◎はナショナルプレイヤー
○内数字は背番号

○……大崎は、新人の大熊、斎藤をスタートから起用、1分20秒その大熊が速攻で持ちこむ幸先のよいスタートだった。

しかし、ドロットは7分1−3からのたたみかけで4−3と先行。これで落ち着き、大崎に追いつかれながらも余裕をもって試合を進めた。

特に6−6のあと17分ルンド、19分ヤコブソンがいずれもミドル、21分バイストリョームがサイド、22分クリングバールが速攻と多彩な攻め口で4点連取、10−6としたのは大きかった。

○……大崎も、大熊の活躍で反撃の気勢をあげたが、25分すぎO・ベントソンに僅かなスキをつかれて4点差をキープされた。

前半終了間ぎわ、大崎は10−12とし、残り30秒の速攻からPTを得て、場内をわかせたが、斎藤が気負って落とし、ドロットを楽にさせた。

○……後半も同じような展開で、やや大崎が押し気味だったが、18分14−15と迫りながら、そのあとPT1本を含む3ゴールを失って18−14とされたのが、勝敗の行方を決めた。大崎ディフェンスが一歩出遅れた時にシュートを持ちこまれたものだった。

こうした形で、せっかくの善戦を負けいくさにしてしまうのは、ヨーロッパ勢を相手にした時の、日本チームの欠点である。

少しでも疲れをのぞかせると、一気につけこまれてしまうのだ。

このような場面での失点は、精神的にも打撃をうけるから、なんとしても踏みこたえなければならない。

仮にここをおさえれば、追いあげムードだけに、一気にこちらのペースにのせることもできる。

大崎はシーズン初めでもあり、しかも、新人を加えての初公式戦とあっては、この乱れもしかたがないが、勝てる試合だっただけに惜しい。

″″″″″″″″″″″ 判らないチーム名の由来 ″″″″″″″″″″″

□……こんな愉快な話があるだろうか。誰に聞いてもドロット（DROTT）の意味が判らないのである。クラブ創設が一九三六（昭11）年という屈指の名門。

当時からのメンバーというペターソン監督は「30年ほど前からこう呼ばれるようになった」というアイネルト・コーチにいたっては、質問する編集子に「判ったら航空便で教えてくれたまえ」。

ご多聞にもれずこのチームにもシーズン契約のスポンサーがついている。スウェーデンの大手合成樹脂産業会社で、日本でもその商品名を染めだしたユニホームでプレーしていた。

全日本、思わぬ苦戦

ドロットの最終戦、全日本(オリンピック候補チーム)との試合は、19日午後7時から横浜文化体育館で行われた。審判＝岡前義春佐野和夫(ともに国際審判員)、観衆＝二千

全日本 20 (11―8 / 9―10) 18 ドロットハルムスタート

得	【ドロット】		【全日本】	得
0	トーマソン	GK	斉藤(日体大ＯＢ)	0
0	アスバーグ	GK	本田(大阪イーグルス)	0
1	H・ヨハンソン	FP	木野(湧永薬品)	0
2	B・ハンソン	FP	藤中(大同製鋼)	5
4	アブラハムソン	FP	中井(大同製鋼)	1
5	クリングバール	FP	佐藤(本田技研鈴鹿)	1
0	ヤコブソン	FP	菊池(東京12ch)	4
0	B・ヨハンソン	FP	蒲生(中大)	5
2	ハッセルバーグ	FP	村田(三景)	2
1	ベントソン	FP	佐々木(三景)	2
1	ブローマン	FP	柳川(大同製鋼)	0
2	グンナー・ルンド	FP	斉藤(大崎電気)	0
18	(2)	PT	(1)	20

後記　栗城紘一郎(神奈川協会常任理事)

○……勝ちこしをかけた相手が、ナショナルチームとあってドロットの意気ごみはすばらしかった。

一方の全日本も、オリンピック出場権を得た直後でもあり、まずい試合はできない。

ドロットの見守るなかで、前座試合のハーフタイムに練習するなど闘志をのぞかせた。

はたして、立ちあがりの全日本の攻撃はすばらしいものがあり、2、3分蒲生の豪快なシュート、4分藤中のジャンピング・ショット、5分蒲生のロングと一気に攻めたて、あっさり4―0とリードを奪った。

ところが、これで気をゆるめたのか、そのあとは、無理な態勢からのシュートが多く、ドロットディフェンスの激しいマークを突き破るだけの切りこみもなく、13分間ノーゴールだった。

○……この間にドロットは、じわじわと追いあげ、動くだけで鋭さのない全日本守備陣をつき11分3―4、さらに16分クリングバールのポスト、17分ハッセルバーグのミドルで5―4と逆転した。

全日本は18分、佐々木の巧技で同点にしたが、ペースを持ちなおせず一進一退、前半終了まぎわドロットに、鮮やかなワンパス速攻を決められて、1点のリードを許した。

○……後半、全日本は得意の速攻が決まり出し、3分藤中で同点(10―10)、4分佐々木で逆転のあと、6分佐々木―村田のコンビが狙いすましていたスカイプレーをみごとに実らせて、ようやくリズムにのった。

こうなると守りもよくなり、15分までに失点1、菊池を中心とした加点で16分17―11と差がついた

○……これで勝負ありと思えたがドロットも粘る。全日本の守りに少しでも当りがなくなると豪快に射ちこんでくる。

FTから2mのルンドが投げおろし、アブラハムソンが体を沈めた姿勢からえぐるようなシュートをみせる。伝統のポストプレーもいい、その攻めは多彩だ。

全日本は25、27分2本のPTをとられて20―18まで追いこまれたが、そのあとGK本田の美技などあってどうにか逃げ切った。

16分6点差をつけたあと、全日本は3点しか加えていない。前半といい、後半といい、この波の激しさが、苦戦の因ではなかろうか

〃〃〃〃「この一番」とハンソン〃〃〃〃

□……ドロットの看板で、スウェーデン最高のテクニシャンといわれるB・ハンソン(178cm、69K、会社員)は、今シーズン利き腕の左腕を痛め、元気がない。

全日本は後半ようやく得意の速攻が出た。シューターは菊池。

彼の不調で、スウェーデンリーグでは連覇どころか8位に落ちてしまい、ゲランソン団長も「ウチにとっても彼にとっても今年は忘れたい年……」という

それだけに、今シーズン最後の公式戦となる全日本戦は「この一番」とばかり張り切っての出場。ゴールエリア周辺での鋭いランニングプレーや、軽妙なシュートテクニックで、最優秀選手(昨年度)の片りんをみせた。

特に、前半16分、右ラインぞいをドリブルで快走、クリングバルにつないだプレーはみごとで、しかもスピード豊かなドリブルワークは、右手でのものだった。

〃〃〃〃ストのあおりうける〃〃〃〃

□……横浜でヨーロッパチームを迎えて国際試合が開かれるのは46年秋のスウェーデンナショナル戦以来のこと。

オリンピック出場を決めた全日本の初登場とあって前人気は上々だったのだが、予定した20日がゼネストのため、急きょ日程を1日くりあげて開催した。

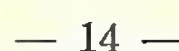
「変更の連絡は徹底されたが、やはり一般ファンは都合がつけにくい。計画どおりだったら、あと四五百人はよけい集ったろう」と若崎重富大会委員長は残念そう

課題多い全日本

杉山　茂(NHK運動部)

モントリオール出場を決めた全日本の出足は極めて快調で、一方的な経過をたどるか、とみえた。

ところが、そのあと、まったく動きが止まってしまい、ドロットの



逆襲をうけて、思わぬ苦戦を強いられた。
試合後、竹野監督は「最初にあまり簡単に得点できたので、気がゆるんでしまった」という。
ある選手は「湧永、大同が勝っているし、4—0とした時、これなら楽だと思った」と監督談話を照れくさそうに〝裏付け〟る。
だが苦戦の因は気のゆるみだけだろうか。結果論かもしれないが前半10分までに課せられたPT2本を決められていたら、後半の最初15分間、第二GKのアスバーグではなく、正GKのトーマソン（第7回世界選手権代表）がつとめていたら、全日本は、苦戦どころではすまなかったろう。


巧妙なハンドリングとフットワークをみせたテクニシャンのハンセン（中央）

以前から、全日本は、ヨーロッパチームを相手にした時、ある時間、まったく攻めあぐむ。
この試合も前半5分12秒から18分27秒まで無得点だったし、後半15分52秒以降は3点をあげただけである。
私は、この〝静止〟を「ゲームスタミナ」の乏しさとみるのだがどんなものか。
ウエイトのある相手をむこうにまわしては、攻防両面とも、国内試合とは比べものにならぬほど、エネルギーを費消させる。疲れるのだ。
それで、足が止まる。攻撃に切れ味がなくなり守りでは、コーチングスタッフが口をすっぱくしていいつづけている詰めをなくす。
大きな相手に助走をつけさせてしまえば押しこまれ無理なディフェンスになる。高打点からフルスイングでシュートを射たしてしまえば、よほどのことがない限り防ぎ切れない。
全日本が、過去ヨーロッパ勢との試合で負けたスコアブックをみると、ほとんどがこのパターンである。
しかも相手はナショナル、クラブに限らずとあれば、全日本の大欠陥ではないか。
その底に、疲れを振り切る気力の問題もひそむ。
足のつかない、手先だけの守りはPTをとられる。
ドロットのアイネルト・コーチ（元スウェーデン・ナショナルコーチ、46年来日）は「日本が、オリンピックで目標の順位を獲得するには、もっとディフェンスをきれいにしなければダメ。手で防ぐのではなく、体（ボディ）で防げ」という。
〝一歩〟が出ないのは、体力なのか、気力なのか。
攻撃面で雑なプレーが多いのも結局は「ゲームスタミナ」に起因する。
ディフェンスを崩す努力をせずに射ちこむシュートが、ゴールを刺すとは考えられない。
にもかかわらず、この〝失敗〟を繰り返す。
アジア予選の最終戦・対韓国2回戦で苦戦したのは、1回戦の楽勝から〝個人技〟に走りすぎたため、という。
もちろん、この夜の全日本によいところが、まったくなかったわけではない。
特に後半8、9分、ドロットの強シュートをFPの壁でブロックし、そのこぼれ球をすばやく拾って速攻へ転じたプレーは鮮やかだったし、クイックパスによるゆさぶりも、まとまってきている。
蒲生の進境がめざましいし、つねに縦へ縦へと強気に攻める村田や、巧者・佐々木の復調も目立つ
モントリオールで6～8位入賞を目指す全日本。
この夜集った二千人をこすファンと10社近いスポーツライターたちには、「期待」より「心配」を感じさせてしまった全日本だが、竹野監督の「この期にいたって新しい技術・戦術は考えられない。今後の合宿では、基礎体力の養成を徹底的にはかる」という言葉の成果を見守りたい。

アイネルト・コーチに聞く

——46年来日した時と比べて日本チームは変ったか
「全般にコンビネーションプレーが巧くなっている。
スピード豊かなことは相変らずだ。特に全日本の進境がめざましい。攻撃の時のボディの使いかたは独得の〝ブロック・プレー〟を生んでいる。」
——全日本は、オリンピックでどの程度の活躍が望めるか
「（何位を目標にしているのか、とたずねたあと）ユーゴやソ連は強いし、西ドイツも持ちなおしてきた。
だがディフェンスさえよければ日本にも勝機はある。」
——ディフェンスの課題は
「身体が小さいためかえってプレーが荒々しくみえる。オリンピックでのレフェリングは厳しいからよほど注意しなければならない。今のままではPTで自滅する」
——日本のスカイプレーは、ラインクロスと思うか
「今夜（対全日本）みたところでは反則ではないと思う。」
——日本選手で目立ったのは
「なんといっても藤中だ。これは私だけでなく、チーム全員が、すばらしいといっている。
チームでは大同製鋼。速いプレーが印象的だ。
話はそれるが女子の試合（注・横浜での前座戦、東京重機×日本ビクター）でみた古佐原（重機）。
スウェーデンの女子は、男子に比べて人気がないが、古佐原のようなプレイヤーがいたら、関心も高まるだろう」
——ドロットの試合ぶりは
「今季は故障者が多く、ハンセンなど全治していない。遠征疲れもあったが、全力をつくしたつもりだ。」

日本リーグ男女とも"決定戦"

特筆される大阪イーグルス加盟
学生勢は参加を見合わす

少ない開催地立候補

大同製鋼、湧永薬品、本田技研鈴鹿、大阪イーグルス、三景、大崎電気、三陽商会(以上男子)、日本ビクター、立石電機、ブラザー工業、東京重機工業、大崎電気、東北ムネカタ、日立栃木(以上女子)——。

日本ハンドボールリーグ初代加盟16チームのうち、まず14チームが決まった。

今秋9月4日開幕を目標に準備の進む「日本ハンドボールリーグ」は、4月15日その加盟申しこみが〆切られ、ノミネートを受けた男子25、女子18チームのうち、別掲のとおり男子10、女子9チームがエントリー。ランキングにしたがい男女各7チームの加盟が確定、残る1チームは、セレクションマッチ(代表決定戦)で選ばれることになった。

エントリーの順調さに引きかえ開催地申しこみは、伸びがみられず、現時点での数では、男女56試合を消化できないため、日本協会は早急に、対策を検討する、としている。

◇　◇　◇

加盟チームは予想以上の反響であった。

初年度は、男女とも6チーム程度にとどまるのではないかとみられていたが、なんと、セレクションマッチが必要になるほど。

エントリーは、予想どおり実業団の上位チームで、昨年まで「日本実業団リーグ」(全日本実業団選手権)を実施していたこともあって、比較的すんなり"移行"した感じである。

注目の学生・クラブ勢からの参加は、ほとんど「ノー」の回答、関係者を落たんさせていたが、4月11日になって男子・大阪イーグルスの加盟届が送られてきた。

教職員界の名門クラブ

大阪イーグルスは大阪に本拠をおく日体大OB中心のクラブ。

全員が教職員で、これまで全日本教職員選手権で10回、国体教員で9回の優勝を誇る名門、全日本教職員では最近5年間無敗だ。

実業団、学生に伍してトップクラスに君臨しており、48年の第25回全日本総合選手権では大同製鋼(愛知)、湧永薬品(大阪)について3位となっている。

また、かつては39年から43年まで5年連続西日本一般男子選手権でチャンピオンとなり、国内有数の有力チームといってよい。

ナショナルチームのGK本田のホームクラブでもある。

費用はメンバーが負担

戦力、球歴は申し分ないが、はたしてクラブチーム、しかもメンバーの職業的な制約で、リーグ加盟は難しいのではないかとみられていたが、「運営規程を徹底的に検討したうえで参加に踏み切った」(村田弘オーナー)。

費用は、OBを含めた現役選手の負担で乗り切ることになる。

メンバーの結束と、なみなみな

惜しまれる学生勢の不参加

日本リーグに学生勢の参加をという企画は他の競技にはないユニークなものだっただけに、それが実現されずたいへん残念に思う。

学業との両立、財政面などの理由から無理だということは、予想されていたが、何とかならなかったものだろうか。

たとえば、OBの参加である程度、財政面の解決がつくはずだ。

財政的には、OBの協力のほか、スポンサーの獲得といった思い切ったアイデアもあるだろうし、戦力的には若手OBの参加を働きかければよかった。OBが加われば、"現役"の日程面での負担もある程度軽くすむのではないか。

大学チームが、学生界の王座を最高目標とするのは肯定される。

しかし、社会人から全日本のタイトルを奪おうとする気力も忘れないで欲しい。

去年12月の全日本総合で、中大東女体大などが実業団を苦しめ、場内を沸かせたことは記憶に新しい。

見る側にしても、社会人×学生の対抗は新鮮である。

外国では学生チームの全国リーグ参加が数多い。

ルーマニア女子リーグの勝者はこのところつづけてテイミソアラ大学だし、フランスリーグの去年の勝者はマルセイユ大学だ。

"国情"の違いもあるが、今回がダメでも、なんとか来年以降、日本リーグ加盟を前向きの姿勢で考えて欲しいものである。(青木)

らぬ意欲がうかがわれる。

イーグルスの加盟は、クラブ界に早くも大きな反響となっており特に同じ立ち場の教職員系チームは、驚きの表情さえ浮かべている

その試合ぶりは、リーグの焦点の一つになるだろう。

また、イーグルスの参加で、日本リーグそのものが、先発している他競技の日本リーグとは異ったカラーを大きく打ち出せることになる。

「学業と両立」解決つかず

注目された学生勢は、男女あわせて11チームがノミネートされたが、やはり当初から不安材料となっていた「学業との両立」が大きなネックとなり、いずれも不参加（5校が未回答）となった。

しかし、各校ともOB、学校関係者などがかなり慎重な検討を重ねており、初手から「参加できず」としていたのは2校にすぎない。

「選手たちは参加したいという気持ちが強かった」（某大学マネジャー）という話も伝わってきている。

日本協会筋は、こうした動きをみて、近い将来、学生界から日本リーグ入りを希望するチームが出る可能性はあるとみたようで、期待を残した。

地方協会推せんチームでは、結局女子のジャスコ（三重協会推）だけが意思表示した。

あとのチームは「推せんされたことは名誉だが、それだけにまだリーグ入りするには力不足」と控え目で、日本協会は「日本リーグが、適切に評価されたもの」としている。

さて、男女とも定数をこえたため、規定により、男子は、日新製鋼呉(広島)、トヨタ車体(愛知)、神戸製鋼（兵庫）の3チームがリーグ戦、女子はジャスコ(三重)×大和銀行（大阪）で、それぞれ残る一つの座を6月末までに争うことになる。（期日会場などの詳細は日本リーグ運営委で決定）

9月スタート押し通す

日本協会を慌てさせているのは開催地の申しこみが出渋っていることだ。

男女全56試合、仮に1日8試合消化としても7試合日が必要で、本誌〆切り（4月19日）までに、数字は明きらかにされていないものの、半数さえもまかない切れぬ低調という。

日本協会は、4月17日の月例常務理事会で、4月末までに見通しをつけることを申し合わせ、場合によっては、緊急常務理事会を開いて対策をたてるとしているが、日本リーグ問題が表面化した昨夏以降、開催地については、ほとんど問題ないとされていただけに、首脳陣の表情は固い。

モントリオール直後というタイミングからも、9月スタートは絶好であり、問題の解決が強く望まれる。

日本協会運営委員　日本協会は4月17日の月例常務理事会で「日本リーグ」担当者(運営委員)として、次の4名を送りこむことに決めた。

運営委員は、このほか加盟チームから各2名が選任される。

（日本協会日本リーグ運営委員）徳永陸繁、嶋田新太郎、山田稔、安藤純光

大同"4強戦"で優勝

日本リーグ、全日本実業団選手権の前哨戦として注目された第8回男子実業団定期戦は4月17、18日東京・駒沢屋内球技場に、大同製鋼(愛知)、湧永薬品(大阪)、三景(東京)、大崎電気(埼玉)の4強が集まり、勝ち抜き戦で行われ、大同製鋼が、順調な仕上りで3年連続優勝を飾った。

他の3チームも、学生界で活躍していた有力選手を加え、陣容を一新、活気のある試合ぶりで、本格的シーズンへ入ってからの活躍を期待させた。

なお、村田（法大—三景）が、試合終了後、最優秀新人賞を受けた。

▽1回戦

大同製鋼 21（10—6, 11—6）12 湧永薬品

三　景 28（12—8, 16—5）13 大崎電気

▽3位決定戦

湧永薬品 24（11—10, 13—6）16 大崎電気

▽決勝

大同製鋼 27（15—11, 12—9）20 三　景

—日本ハンドボール・リーグ加盟諾否一らん—

【男子～候補チーム数25～】

		【加盟意思】
①	大同製鋼（愛知・日本協会）	◎
	湧永薬品（大阪・日本協会）	◎
	本田技研鈴鹿（三重・日本協会）	◎
	中大（東京・日本協会）	×
②	大阪イーグルス（大阪・日本協会）	◎
	大阪体大（大阪・日本協会）	×
	日体大（東京・日本協会）	未
	三景（東京・日本協会）	◎
	大崎電気（埼玉・日本協会）	◎
	三陽商会（東京・日本協会）	◎
③	オールドイーグルス(大阪・日本協会)	×
	大阪教員ク（大阪・日本協会）	×
	法大（東京・日本協会）	×
	日新製鋼呉（広島・日本協会）	◎
	三菱レイヨン大竹（広島日本協会）	×
	トヨタ車体（愛知・全日本実連）	◎
	神戸製鋼（兵庫・全日本実連）	◎
④	海上自衛隊下総（千葉・日本協会）	未
	境港市ＨＣ（鳥取協会）	×
	金沢市役所（石川協会）	×
	住友化学菊本（愛媛協会）	×
	早大（東京協会及び全日本学連）	未
	中京大（愛知・全日本学連）	未
	スワロー兵庫(兵庫・全日本教職員連)	未
	愛知教員（愛知・全日本教職員連）	×

【女子～候補チーム数18～】

①	日本ビクター（茨城・日本協会）	◎
	立石電機（熊本・日本協会）	◎
	ブラザー工業（愛知・日本協会）	◎
	田村紡績（三重・日本協会）	×
②	東京女子体大（東京・日本協会）	×
	東京重機工業（東京・日本協会）	◎
	大崎電気（埼玉・日本協会）	◎
③	日体大（東京・日本協会）	未
	東京学芸大（東京・日本協会）	×
	東北ムネカタ（福島・日本協会）	◎
	日立栃木（栃木・日本協会）	◎
④	北国銀行（石川協会）	×
	ジャスコ（三重協会）	◎
	豊田工機（愛知・全日本実連）	×
	大和銀行（大阪・全日本実連）	◎
	武庫川女大（兵庫・全日本学連）	×
	大阪体大（大阪・全日本学連）	×
	日本女子体大（東京協会）	未

〔注〕・◎加盟意思あり，×なし　未は未回答
・（　）内左側は所属地，右側は推せん者
・○内数字はノミネートに際するランキング

日本ハンドボールリーグ運営委員会規程〈全文〉

〔1・総則〕1、このリーグは「日本ハンドボール・リーグ」（以下「日本リーグ」という）という。2、「日本リーグ」の主事業は次項の目的にそって行う公式戦とする。3、「日本リーグ」公式戦の主催者は、日本ハンドボール協会とする。4、「日本リーグ」公式戦の主管者は、日本ハンドボール協会内に設ける「日本リーグ」運営委員会及び開催地協会（各都道府県協会）とする。

〔2・目的〕参加チームの相互の錬磨によって、国内ハンドボール界の競技力向上と、ハンドボール競技の発展と普及を企ることを目的とする。

〔3・参加チーム〕1、参加チームは、男女とも日本ハンドボール協会一般Aに登録された単独チームとする。2、参加チーム数は、男女とも8チームを限度とする。3、「日本リーグ」に新たに参加するチームは次のとおりとする。

イ、本規程18によって行なう入替戦の勝者。ロ、男女とも8チームに満たない場合。ただし参加の申請が行われたチームは、日本ハンドボール協会及び「日本リーグ」運営委員会によって審議される。

4、新たに参加するチームは、供託金20万円を、日本ハンドボール協会に供託するものとする。この供託金は、「日本リーグ」から除籍された場合は没収する。ただし入替戦によって敗れた場合は、この限りではない。5、参加チームは「日本リーグ」公式戦のための自チーム遠征経費を負担するものとする。

〔4・運営委員会〕1、運営委員会は、日本ハンドボール協会役員若干名及び参加チーム代表者によって構成される。参加チーム代表者は1チーム2名以内とする。2、運営委員会の役員は次の通りとする。

イ、運営委員長1名、ロ、運営副委員長3名以内

3、役員は、運営委員の互選により選出、日本ハンドボール協会会長が委嘱する。4、役員の任期は毎年4月1日から翌年3月31日までとし、重任は妨げない。5、運営委員会には「日本リーグ」公式戦各開催地協会代表者が出席して意見を述べることができる。

〔5・運営委員の任務〕1、運営委員長は、「日本リーグ」の役務を統括し、運営委員会の議長となる。2、運営副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時、または委員長が欠けたときその職務を行なう。3、運営委員は、次の役務のいずれかに所属する

イ、総務委員　ロ、技術委員

4、総務委員は「日本リーグ」の総務、経理、渉外に関する事項を担当とする。5、技術委員は「日本リーグ」の競技運営、審判に関する事項を担当する。

〔6・会議〕1、運営委員会は次の各項に該当する場合に開催する

イ、運営委員長が必要を認めた場合　ロ、日本ハンドボール協会理事長が、開催を求めた場合

2、運営委員会は運営委員の過半数の出席がなければ議事を開き議決できない。議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長が決する。運営委員は、文書をもって他の運営委員に権限を委任することができる。

〔7・日本ハンドボール協会との合同会議〕「日本リーグ」の運営を円滑にするため、日本ハンドボール協会と運営委員会の合同会議を随時開く。

〔8・経理〕運営委員長は、「日本リーグ」公式戦及び、その他の業務に関する予算及び決算書を、日本ハンドボール協会会長にあてて提出し、その承認をうけなければならない。

〔9・運営費及び分担金〕「日本リーグ」全般の運営費は、参加チームの納付する分担金及びその他の収入をもって充てる。各地大会の運営費は、主管する開催地協会（各都道府県協会）の負担とする

参加チームの分担金は、運営委員会で協議、日本ハンドボール協会の議を経て定める

〔10・開催地〕「日本リーグ」公式戦の開催地は、日本ハンドボール協会によって公募され、運営委員会が決定する

〔11・開催権料〕開催地協会（各都道府県協会）は、日本ハンドボール協会に開催権料を支払うものとする。開催権料は日本ハンドボール協会が定める。

〔12・競技規則〕「日本リーグ」の競技規則は、日本ハンドボール協会競技規則とする

〔13・登録〕イ、参加チームは「日本リーグ」公式戦に参加するチーム役員(部長)、監督、コーチ、マネジャー各1名、選手15名以内を定められた期日までに登録しなければならない。ただし、競技の出場選手は12名（GK2、FP10）以内とする。ロ、選手の年令は、男女ともその年の4月2日現在で満18才以上とする。

〔14・外国籍選手〕参加チームは

3名以内に限り外国籍選手を登録できる。ただし、日本の中学校または高等学校を卒業した外国籍選手は、この数に含まれない

〔**15・公式戦**〕「日本リーグ」公式戦は、別に定める「日本ハンドボールリーグ競技細則」による。

〔**16・本部役員、審判員の派遣**〕「日本リーグ」公式戦には、運営委員会により本部役員最低一名と審判員を派遣するが、次のように定める。

イ、本部役員、審判員の旅費は運営委員会、宿泊をともなう場合、宿泊費は開催地協会（各都道府県協会）が、それぞれ負担する。ロ、本部役員は、運営委員会によって定める。本部役員は所定の報告書を作成、提出する。ハ、本部役員は、原則として運営委員があたるが、開催地協会（各都道府県協会）役員に委嘱することもできる。ニ、審判員は、日本ハンドボール協会によって定める。ホ、宿泊費、旅費は「日本ハンドボール協会旅費規程」に準じる

〔**17・総合プログラム**〕「日本リーグ」公式戦には総合プログラムを運営委員会が作成し、各開催地に実費で頒布する（各開催地が独自の「単独プログラム」を作成することはさしつかえない）

〔**18・入れ替え戦**〕1、「日本リーグ」2部大会を組織し、その大会の上位2チームは「日本リーグ」公式戦下位2チームとの入れ替え戦に出場できる。2、2部大会及び入れ替え戦の方法は別に定める「日本ハンドボールリーグ下部大会細則」による。

〔**16・附則**〕1、「日本リーグ」公式戦の開催地協会が独自の後援団体をつける場合は、運営委員会の承認を必要とする。2、「日本リーグ」運営の円滑を企るため、「日本ハンドボール・リーグ運営規程細則」を設けることができる3、公式戦運営の円滑を企るため運営委員会は、毎年度「日本ハンドボール実施要領」を作成しなければならない。4、当規程の定める会議出席者には「日本ハンドボール協会旅費規程」に準じて費用が支給される。ただし、開催地代表者は原則として除く。5、この規程は、日本ハンドボール協会全国代議員会の議決がなければ改正することはできない。6、この規程に定める以外の事項は、日本ハンドボール協会及び運営委員会によって処理する。

（注）「日本ハンドボール・リーグ表彰細則」「日本ハンドボール・リーグ競技細則」「日本ハンドボール・リーグ下部大会細則」「日本ハンドボール・リーグ運営規程規則」は、運営委員会により後日起草される。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

トーナメント法式採用か

～全日本総合選手権新構想へ～

高校代表（男女）枠は撤廃

日本リーグ発足によって、全日本総合選手権の改正が行われることが決定的となった。

約1年にわたってこの問題を研究していた3部合同会議も一応の〝結論〟を抽き出しており、また総務・企画両部は、その答申をもとに、昨年12月9日(東京)の両部合同委員会で将来構想をも含めた新案をまとめあげている。

2月の全国会議（代議員会・理事会）では、執行部一任のかたちで預けられているため、日本協会では、5月の月例常務理事会で煮つめるようだ。なりゆきを探ってみた。

× × ×

日本リーグ実施は、国内の大会システムを、本場・ヨーロッパに一歩近づけることになりそう。

ヨーロッパ各国は、全国リーグのほかに、必ずカップ・コンペティションを行っている。

リーグ、カップどちらの勝者をナショナル・チームチャンピオンとするかは国によって異り（概してリーグの勝者が選手権獲得だが――）プレイオフするところなどもあって、まちまちだが、リーグは総当り、カップは勝ち抜き戦（ナックアウトシステム、いわゆるトーナメント）と、競技法式に特色がある。

日本協会も、日本リーグの実現で、全日本総合選手権は現行の予選トーナメント・決勝リーグ型を勝ち抜き戦に改めるようだ。

46年度（第23回）まではこのシステムを採っていたため、逆行の印象を受けるが、今回のケースでは、その批難は当たらない。

チャンピオン・シップについても、すでに昨年12月13日の月例常務理事会で「日本リーグ1位はあくまでリーグチャンピオン。ナショナルチャンピオンはこれまで通り全日本総合選手権の勝者」と明確な線を打ち出しており、混乱はあるまい。

また、この際、全日本総合選手権の別称として「ジャパン・カップ」を正式に決めたらどうか、とのアイデアがあるのは面白い。

男子24、女子16チーム？

63年には都道府県対抗へ

トーナメント(カップ)にした場合、問題は参加チーム数である。

昨年までは男16、女12で進んできているが、総務・企画部では日本リーグ加盟チームの推せんをみこみ、今年度（第28回）と来年度（第29回）は、男子24、女子16にしたい、と計画中だ。

日本協会・荒川清美理事長は、全日本総合の〝理想〟を、47都道府県代表チームによるトーナメントに置いており、第30回を迎える昭和53年度には、まず日本リーグ加盟チームとブロック代表中心に再度衣がえ、40回大会（昭63）までに、理想の実現を目指している。

少くとも6月下旬には、今冬の第28回大会（12月8～12日・東京体育館）の全容が発表される。

代表推せん枠の手直しも当然行われるが、2月の全国会議で、すでに「全国高体連代表（男女各1）」の廃止が申し合わせている。

高体連代表に推せん枠が設けられたのは46年度（第23回大会）からで、若い人材発掘と高校界はもとより一般・学生界への刺激剤とするものであった。

この狙いは、たしかな効果をあげたが、一方で、「超高校級」といってもやはり高校生、大会内容を薄めさせる、との反省もあった。

高校側も、試合時間の相異、定期試験期とぶつかるなどの問題がおき、また、3年生を12月まで抱束しなければならないことや、使用球のハンデなどで、最近は「無理してまで出るのは…」といった空気がなくもなかった。

高校チームの成績
（高体連代表制定後）

〔男子〕

昭46	出場せず（湯沢高）	
昭47	中大附属(東京)15―29	大崎電気
昭48	出場せず（名城大付高）	
昭49	久留米工(福岡)11―31	三　景
昭50	清　水(千葉)14―30	湧永薬品

〔女子〕

昭46	山陽女(広島)13―6	東女体大
	山陽女　4―8	ブラザー工業
昭47	出場せず（深谷女高）	
昭48	小松市女(石川)8―10	大崎電気
昭49	大　谷(大阪)5―12	田村紡
昭50	小松市女(石川)7―10	ブラザー工業

2月の全国会議では、全国高校選抜大会（仮称）の検討などとからめて高校代表枠の解消は、特に議論もなく通過している。

なくなる「次年度国体代表」

また、女子の「次年度国体開催地代表(1チーム)」も、所期の目標を達したとの見解で撤廃が内定している。

この経過を踏まえて、総務・企画部が用意しているチーム配分案は

男子＝前年度優勝(1)、日本リーグ(8)、全日本実連(4)、全日本学連(4)、全日本教職員連(2)全日本自衛隊連、社会人東地区、同中地区、同西地区、開催地各1

女子＝前年度優勝(1)、日本リーグ(8)、全日本実連(2)、全日本学連(2)、社会人東地区、同西地区、開催地各1、と伝えられている。

「教員」を「一般」に吸収か

来年以降の国体

日本協会は、3月27日の月例常務理事会で、全国代議員会の議決をえている国体の「全県参加種別」の実施（52年の青森国体以降）について協議を行った。

最大の問題点は、参加80チームのうち一種別に47を振り当てると残り枠（33）は三種別が限度になることだ。

今秋の佐賀国体まで、ハンドボールは四種別5部門（成年男子一般、同教員、成年女子、少年男子少年女子）となっており、一種別の廃止が確定的である。

この日の会議では、総務部案として「教員を成年男子一般へ吸収する」ことが明きらかにされたが結論は5月に持ちこされた。

なお、33の配分は11、11、11とすることにまとまり、現行よりプラスされる1は、開催県が所属するブロックに加えられる予定である。

今後の開催県は次のとおり。

▽51年　佐賀▽52年　青森▽53年　長野～以上決定～▽54年　宮崎～内定～▽55年　栃木▽56年　滋賀▽57年　島根▽58年　群馬▽59年　奈良▽60年　鳥取。

全日本実業団選手権（東京・名古屋・大阪）

大同製鋼、楽観を許さず

第17回全日本実業団選手権をかけた今年の男女日本実業団リーグは、前回までのサーキットを廃め、5月8、9日予選リーグ（男・東京体育館女・愛知県体育館）、12、13、14日決勝リーグ及び5〜8位決定戦（男女とも大阪市中央体育館）という新法式で行われる。

日本リーグの発足（別掲）で実業団のトップチームの意欲は一段と高まっており、しかも、オリンピックイヤー最初の全国大会——日本リーグのトライアルともいえる今大会のみどころを、新戦力の話題とともに探ってみた。

（編集委員会）

各チーム「打倒大同」に自信

この大会だけではなく王者・大同製鋼（愛知）が、48年7月の第14回全日本家業団選手権以来、連続9全国大会優勝・3年連続3冠王の快進撃を、今年はどこまでつづけるかが焦点。

一方、いくら大同が強くても、各チームが指をくわえているばかりでは、という声も聞こえはじめている。

そこでまず、〝打倒・大同〟のアンケートの回答から紹介しよう

「有力な若手を迎えて選手層ではヒケをとらない。大同戦になると不思議にミスが出る。好機を確実に活かせば必ず…」（湧永薬品）

「大同のスピードに対抗できる速さを養成した。迫力ではもともとうちが上」（本田技研鈴鹿）

「いつもシュート数（攻撃回数）では劣っていない。つまり、ミスを少なくすればいける、ということだ。守備力の向上もあり今季は勝てる」（大崎電気）

「コンビネーションプレーにみがきがかかっている。優勝するためには大同を食う以外になく、その自信は充分」（三景）

「大同のロングは力より技巧型。怖くない。ロングを多用させて止め、そこから一気に逆襲…」（三陽商会）

「ムードに気負けせず、序盤で先行、そのペースをできるだけ長く引きこめれば勝機がある」（日新製鋼呉）

「正面からぶつかるのではなく、こちらのペースで戦えば、つけこめよう。無欲で臨むほうがいいかもしれない」（三菱レ大竹）

女子も混戦模様

佐々木—村田の三景

受けてたつ大同はメンバー不動「研究されているのは百も承知、やり甲斐がありますよ」（野田コーチ）と自信満々だが、予選リーグの組み合けをみると本田技（三重）三景（東京）、日新（広島）が同組、簡単には進めそうにない。

特に、三景は、村田（法大）、中馬（九州産大）と学生界を代表するテクニシャンを迎え、いちだんと技巧的なチームになっている。

展開力と読みでは国内随一になったとも云え、特に佐々木—村田の軽妙なプレーは、ファンを魅了しそうだ。

本田も、はっきり「優勝」を口にしている。ビッグゲームになればなるほどプレーの冴えるGK柴田（法大）を加えたのは大きい。

喜井、金子も2年目のシーズンを迎え、昨年以上の力を発揮しそうだ。

日新は脇若の好リードで若手が伸びたところへ、大庭（同志社大）が入った。

大同にとっては、久々に迎えたピンチといえないだろうか。

盛り返すか大崎電気

一方のパートは、湧永（大阪）の決勝進出はまず固そう。新人は戸田弟、藤本（ともに中大）山本（名城大）と即戦力。これで木野、森を要所に使える。

残る一つは激戦だ。最上位カムバックを目指す大崎は大熊（中大）左腕・斉藤（日体大）を補強、活気づいている。ともに迫力にあふれた攻撃を誇り、個性豊かなプレイヤーだ。GKは福本がつとめる。

三陽（東京）は、目ぼしい新人は田村（中大）一人だが、近森選手兼監督のもつ激しさがチームに侵透しはじめ〝一発〟のこわさを貯えてきた。

三菱レ（広島）は、3年連続得点王を有力視されるエース大江が相変らず元気にチームを引っぱっている。

決勝リーグへ勝ちあがり優勝を最終的に争うのは、大同、湧永、大崎、本田×三景の勝者と思われるが、これまでとちがい「大同絶対」といえないところが興味深い。

得失点差の争いにもつれそうで全試合エキサイトした展開となろう。

安定の立石、ビクター 追ろブラザーと重機

女子も、昨年実力ナンバー・ワンを誇った田村紡（三重）の解散で混戦模様だ。

「4大タイトルのうち一つはとりたい」（日本ビクター・池田監督）というのが、各チーム共通の気持ちで、かつてないせりあいとなりそう。

女子の場合、新シーズン2カ月足らずで、戦力を安定させることは難しく、この大会はいっそう波乱含み。

上位を狙うには、やはりベテランの力に頼らざるを得ず、その意味で立石電機（熊本）と日本ビクター（茨城）が買える。

立石は、チーム結成後、3年目を迎えるが、これまで各大会で優勝候補群に必ずあげられながら、まだ、いちども栄冠を手にしていない。

島田、蔵田、山下、紀野、GK和田と5人のオリンピック候補をもつ手前、どうしても、ここらで〝1勝〟が欲しいところだ。

池渕の伸びを考えると、今年の全大会は、立石中心の展開とみてもいい。

ジャスコが新加盟

田村紡（三重、廃部）の穴を埋める女子・日本実業団リーグ新加盟チーム決定戦は、4月18日名古屋のブラザー工業体育館で、ジャスコ（三重）と大和銀行（大阪）が争い、旧田村紡勢によるジャスコが勝った。

ジャスコ（三重）10（4－5、6－2）7 大和銀行（大阪）

ビクターは、加藤、穂積と渡辺鈴木の両GKがオリンピック候補。

蓮見の健在と、小島、斉藤の進境もあり立石の攻守にそん色ないが、いぶし銀的存在だった額賀の負傷が治り切らぬときつい。

控えが、やや手薄な感じがするだけに永池(笠間高)、小熊(新潟江南高)、藤原(鉾田二高)ら新人の働きもカギ。

両者を追うのは東京重機(東京)ブラザー工業(愛知)か。

重機は佐久間、宮田、宮下の三宅高トリオをはじめ、久々に9人の新人を加え賑やかになった。

古佐原をはじめ、折口、村上も元気だし、横山、寺田らの充実もある。不安は、アタッカー菊地の負傷とこの二〜三年、1人でゴールを守りつづけた三紙が退き新人GK・佐久間をいきなり起用せねばならぬことだろう。

ブラザーは、相変らず一線級の変動が激しいが、小森(オリンピック候補)が、いちだんと攻撃力を増しエースに成長している。

新人岩井(武庫川女短大)が、社会人ペースにとけこめば、これまでとは異ったカラーも望める。

上位狙う3チーム

大崎電気(埼玉)、日立栃木(栃木)、東北ムネカタ(福島)も、着実にチーム力を増して上昇機運をみせている。

実業団タイトルももちろんだが日本リーグ発足が、やはり刺激になっているのだ。

3チームとも主力は変わらない去年はいずれも〝若さ〟をのぞかせただけに、昨シーズンで、どれだけキャリアを積んだかが、決め手になるだろう。

谷口(大崎)、伊藤(日立)、田口(ムネカタ)の3監督が「いい方向に行ってます」と口を揃えるのはこのあたりの、手応えをつかんでいるからとみてよい。

個々の選手では晴山(日立)、清水(ムネカタ)、永吉(大崎)ら新鋭の成長が注目される。

新人では、西(佐世保商—大崎)のスケールが大きく、社会人第1戦の対仁川市庁戦(韓国、3月名古屋)で4点をたたき出し、非凡なところをみせている。日立の島田(明倫高)も172cmと大型だ。

勢いにのるかジャスコ

注目のジャスコ(三重)。

松下、河田、GK久保と3人のオリンピック候補をはじめ、田村紡で活躍していた10人を引きとってこの2月に生れたチーム。

3月のNBN杯(名古屋)で優勝幸先よいスタートを切っている。

問題は、田村紡で絶妙のリードをみせていた三毛が欠けているため、一本調子に流れた時、どう局面を切り抜けていくかだ。

若さにまかせた勢いで一気に勝ちこむか。他チーム以上に大切な今大会である。

切り札・松下は、女子界待望の新スターになり得る素材だ。

去年の世界選手権で個人得点3位にランクされ、すっかり自信をつけている。

ジャスコだけにとどまらず、全日本にとっても、彼女のプレーには期待がかかる。

五輪選考もかかる

予選リーグの組み分けからみると、争覇圏内に残るのはA組(立石ブラザー、大崎、日立)からは立石、ブラザー、B組(日本ビクター、東京重機、東北ムネカタ、ジャスコ)は、ムネカタが決勝進出にはやや力不足だが、ほかの三者は予断を許さない。

去年のリーグでは、スタートでつまづいた重機が、そのまま立ちなおれぬまま終ってしまい、逆に序盤で気をよくした田村紡が、一気に栄冠を手にしている。

女子の大会は、えてしてこうした流れになる。

立石×日本ビクターと推すのが順当だが、それも、オリンピック候補選手を数えての話——。

なお、日本協会は、この大会(女子)をオリンピック(3大陸代表決定戦を含む)代表の最終選考会として扱うことを決めており、興味をいっそう盛りあげている。

◇……日　程……◇

▽男子予選リーグ
5月8日10時〜19時55分(東京体育館)
5月9日10時〜14時55分(東京体育館)

▽女子予選リーグ
5月8日13時〜18時（愛知県体育館）
5月9日12時〜16時（愛知県体育館）

▽決勝リーグ・5〜8位決定戦（男女）
5月12日正午
5月13日13時
5月14日13時
（大阪市中央体育館）

◇…各チーム主力メンバー…◇

	〔男　子〕			〔女　子〕	
	【大同製鋼】			【立石電機】	
K	柳川兄	176	K	和田	168
F	藤中	179	F	島田	163
	中井	180		山下	159
	花輪	177		蔵田	162
	松原	180		池渕	160
	柳川弟	175		紀野	165
	中本	180		篠田	162
	【湧永薬品】			【日本ビクター】	
K	福井	180	K	渡辺	161
F	木野	181	F	蓮見	163
	穂積	180		額賀	163
	津川	180		加藤	165
	松本	174		穂積	168
	高橋	165		小島	165
	戸田兄	170		斉藤	165
	【本田技研鈴鹿】			【ブラザー工業】	
K	◎柴田	186	K	山本	164
F	佐藤	180	F	小森	166
	新実	181		佐々木	153
	田上	178		国府田	158
	柳	179		中川	158
	喜井	178		山中	162
	金子	182		楠石	171
	【大崎電気】			【東京重機】	
K	福本	175	K	◎佐久間	
F	前渕	184	F	古佐原	153
	飯田	188		菊地	162
	井手	165		村上	168
	佐藤	176		横山	160
	◎大熊	177		町田	163
	◎斉藤	175		折口	150
	【三　景】			【大崎電気】	
K	佐藤	176	K	西村	166
F	佐々木	172	F	中村	159
	加藤	178		席定	161
	山村	175		長谷川	163
	川島	175		大場	165
	◎村田	176		深堀	164
	◎中馬	180		◎西	167
	【三陽商会】			【東北ムネカタ】	
K	吉近	172	K	熱海	165
F	近森	183	F	有賀	165
	田中	183		遠藤	152
	小川	180		鈴木	164
	稲木	171		清水	170
	緒方	170		本郷	155
	石原	162		近内	153
	【日新製鋼呉】			【日立栃木】	
K	三田	180	K	粂谷	163
F	下茂	178	F	晴山	168
	吹上	173		大岩	157
	脇若	180		小根沢	155
	◎大庭	180		小山	163
	徳田	175		桜庭	155
	関本	180		藤田	158
	【三菱レイヨン大竹】			【ジャスコ】	
K	藤本	173	K	久保	162
F	善本	177	F	松下	163
	大江	172		河田	166
	岩本	172		金田	156
	山川	165		鈴木	161
	重村	183		平田	164
	武田	180		林	158

◎印新人，数字は身長（cm）

審判部中央研修会報告

安藤純光

例年は一泊二日ないし二泊三日で実施していたが、今回は諸般の事情から一日で開催することになった。毎度ながら、高率の出席（42都道府県協会及び3全国連盟）を得て短時間ではあったが、参加者の熱心な研修によってきわめて実り多い研修となった。

以下は、3月7日東京渋谷の岸記念体育会館で行われた本研修会の報告である。

◇

〔研修会日程〕▽午前10時30分～11時あいさつ、連絡事項▽11時～正午講演「技術とレフェリーについて」（渡辺慶寿技術部長）▽午後0時30分～1時30分「昭和51年競技規則について(改正点)」▽1時40分～3時50分「質疑応答～競技規則全般、その他～」▽4時閉会あいさつと日本協会の現況説明（荒川清美理事長）。

今回の研修会において新らしい試みとして「技術とレフェリー」という問題を採りあげた。

これまでルールおよびレフェリーに関しては審判部が、いわば独自で判断し施行していたのである

しかしながら、日本協会の組織のなかで、競技に直接関与する3部門（技術・普及・審判）の連携の必要性は、今日までにさまざまな場で論じられていた。

3部合同会議の誕生は、この必要性によるものである。

そしてそれをさらに具体的にするための一つとして、渡辺技術担当常務理事（技術部長）をわずらわし講演をお願いして一石を投じてもらった。

〔渡辺慶寿技術部長講演「ルールと技術」要旨〕

スポーツのルールとは、ルールの違反による、実利と不利益とを対象とし、技術的な配慮を考えるものである。従って、技術と審判は、一致する面がある。一方ではルールの範囲の中で、プレーを練磨することになる。審判については、ルールの範囲を認識し、想定されるルール違反について学ばなければならない面があり、それぞれルールの範囲の中で、それぞれの技術を磨かなければならない。古い時代より、人を裁くことは、広く行われている。スポーツの中でも同様に、古代オリンピア時代でも審判員の養成が現在とは異るが行われていた。審判員は、エリス人の中から選ばれ高い権威をもったものであり、選挙により競技のある一年前に選ばれ、約一〇ケ月間競技についての知識を教えこまれたという。アメリカンリーグの往年の名審判シルク・オラウリンは、「審判員というのは、人格が高まいでその仕事に精通しなければならない」と述べている。すなわち野球の審判に必要な条件は必ずルールに精通していることがあげられる。ハンドボールにおいても同様である。しかし野球の場合でのトラブルの多くは、ストライク、ボール、フェア、ファウル等の基本的なルールの問題が多いとされている。しかもこのルールは審判の判断による裁定に対しての疑義をも出ることができないものである。そこにスポーツの共通した面があると考えられる。ハンドボールの場合でも、審判に対してのトラブル、不満は、よくみかけることである。ハンドボールの技術とは、得点に結びつける、対人間の連けいプレーであることは、書く人達が認知するところである従って技術の練磨は、いかにその過程の基本的技術を取得するかにあり、その過程の技術とは、当然ルールの範囲内で収得せざるを得ないのである。そこにルールとゲーム技術とが互いに結びつけないで、一方的にルールを解釈する点に大きな問題がのこされている。ゲームでの技術とは、一面ではよりプレーを満足するものであり、そのプレーを収得することによって、シュートにより得点が得られ発展的に勝利に結びつけられるものである。ルールの内容によってその競技の魅力が異るが、競技の技術の内容と、審判技術によっては十分にその競技の内容を変化することが、可能であると考える。これがすなわち、技術と審判の一致するゆえんである。特に技術の練磨による、技術の何とは、ルールの範囲の中で、無限とは、いわないまでも、何上そして魅力ある可能性は十分にあると考える。部分的にルールの改正を試みることがあるが、ハンドボールという本質をふまえての改正が前提であり他のスポーツをまねてのものではない。将来においてもその前提はくつがえすことなくハンドボールの特徴を示すべきでその上にたってゲームの技術の可能性にむかっていかなければならない。（了）

51年度競技規則について

50年度版競技規則はIHF発行の一九七三年版を基礎に作成したものである。IHFは2年毎に新らしい規則書を発行しているが、今回の改正は一九七五年版との照合の結果による改正である。文章の書きかえと追加が大部分で内容的には、大きな改正はない。以下順を追って変更のあった主な点を述べる。なお（新）とあるのは新らしい文章、（改文）とあるのは文章が改たまったもの、（改正）とあるのは文章ならびに内容が改正されたもの、（追）は文章が追加されたものを意味する。

1の1（改文）内容変化なし

1の1（原注）（改正）競技場の周囲にサイドラインに沿って1m、ゴールインに沿って2mの安全地域を設ける

◎日本の場合には規則書P87の競技場設営基準図による

1の2（改正）3行目から4行目……ゴールポストおよびクロスバーは、一辺が8㎝の四角い木材、軽金属あるいは合成の材質のものでなければならない。

◎ゴールの材質については、73年版ですでに改正されている。軽金属とはアルミニュームである。

2の1（改正）ボールは球形でゴムのチューブと単色の革あるいは合成の材質の被いでできていなければならない外部の被いは光ったり、すべりやすいものではいけない。

2の5（新）公式競技（IHF規約Ⅸ）には、IHF公認の証印のあるボールを使用し

なければならない。

◎IHF規約IXにある公式競技とは、世界選手権大会、オリンピック、大陸選手権大会などである。

3の1（改正）6行目から7行目……ベンチには4名のチーム役員と交替プレイヤーだけがいることができる。

3の1（注）（改正）競技中ベンチにチーム役員・交替プレイヤーを含めて9名（チーム役員4名＋交替プレイヤー5名＝9名）以外は入れない。

◎本文にある通りにベンチに入れる人員を改める。

3の3（追）5行目から10行目、競技に参加できるプレイヤーは、レフェリーがスローオフの笛を吹くときに競技場にいるプレイヤーと競技に参加する資格が与えられる名簿にあるプレイヤーである。競技開始時間におくれたり、あるいは一定の時間退場させられているプレイヤーは、スコアラーとタイムキーパーによって認められた後に競技に参加することができる。

3の8（改文）内容変化なし。

4の6（追）5行目以下……この中断時間は、そのハーフまたは延長戦の時間に追加されなければならない。したがって退場させられているプレイヤーの退場時間も追加されなければならない。

4の6（原注）（新）国際競技（IHF規約IX）では、できるだけ公開の時間表示器を使用しなければならない。公開の精密時計を使用するときにはタイムキーパーはレフェリーの笛が吹かれたときに始動し、また止められなければならない。公開の時間表示器を使用するときには、タイムキーパーによって始動または止められなければならない。もし公開の時間表示器をタイムキーパーが始動したり、止めることができなければ、タイムキーパーは専用のストップウォッチを使用し、中断の時間を記録しなければならない。タイムキーパーは中断の時間を両チームのチーム役員に通知しなければならない。

4の7（改文）内容変化なし。

4の10（追）2行目以下、すなわち延長戦に入る前に競技に参加する資格があるプレイヤーあるいはチームが12名になるまでのプレイヤーである。

8の7（新）故意にゴールエリアラインをクロスしてボールをプレイすること（フリースロー）（第5条の11参照）

10の4（追）6行目から8行目：プレイヤーがスローインを行なう正しい位置についたときには、ボールを下におといたりあるいはバウンドさせたりすることはできない（第13条の2参照）。

13の6（原注）（新）レフェリーは退場あるいは追放によって罰せられなければならない違反を犯したプレイヤーが防禦側のプレイヤーである場合には a、得点された b、違反を犯したチームがボールを得た c、その他の何かの理由で競技が中断された。あとで違反を犯したプレイヤーを罰するということを示すために腕を数回上にあげる。競技は次のように再開される a、スローオフから b、ボールがあった地点から違反されたチームのフリースロから c、それぞれの場合に相当するスローから。

14の2（原注）（改文）内容変化なし。

14の8（原注）（新）防禦側チームのプレイヤーが退場あるいは追放によって罰せられなければならない違反を犯したならば、レフェリーは腕を数回高くあげ a、得点された b、違反を犯したチームがボールを得た c その他の何かの理由で競技が中断されたあとで、そのプレイヤーが罰せられることを示さなければならない競技は次のようにして再開される。a、スローオフから b、ペナルティースローから c、それぞれの場合に相当するスローから：

16の8（追）4行目以下 ゴールスローのときには、ゴールエリアラインから3mはなれていなければならない。相手チームの不正な位置はスローをするチームがすぐスローを行なう方が有利であるときにはレフェリーは正さなくてよい。スローを行なうプレイヤーに近ずきすぎる位置をとったり、またはその他の違反を犯すことによってスローをおくらせる行為があったならば、そのプレイヤーは警告されなければならない。違反がくりかえされた場合には、そのプレイヤーは退場あるいは追放される（第17条の13、14、18参照）。

17の1（追）2行目以下……（IHF公式競技では1名の放

送係とドーピング検査担当者。２名のＩＨＦ代表者が出席する)。

17の16（改文）内容変化なし。

17の21（原注）（新）ストーリングは非スポーツ的行為と見なされる。ボールを所有するチームが得点しようとしないばかりか、ボールをできるだけ長く所有しようとすることである。プレイヤーは、他のプレイヤーへのパスをくりかえし相手チームの防禦を破ろうとしないことである。

17の24（改文）スコアラーは、競技に参加する資格があるプレイヤーのリストを点検しなければならない。スコアラーは、タイムキーパーとともにプレイヤーの入退を管理しなければならない。スコアラーは、競技の記録（時間、得点、警告、退場追放、失格）をしなければならない。

17の25（追）２行目　a、交替位置（第３条の１参照）。

17の26（追）１行目　レフェリー、スコアラー、タイムキーパーそしてプレイヤーは……

競技の運営　P71、１競技開始前の準備（新）、（ヌ）トスおよびメンバーの提出は第１試合の場合には、競技開始30分前に、第２試合およびそれ以降の場合には前の競技の前半終了時に行なう。

レフェリーのゼスチュアー（改正）

一九七五年のシツタルドにおける国際審判員研修会においてＩＨＦが定めたハンドサイン（本誌138号33頁参照）をそのまま採用することにした。

全日本大会審判員の選出および決定に関する申し合せ事項（新）

審判部合同会議は、以前から同申し合せにしたがって審判員を決定しているが、公開する意味も含めて規則書に掲載した。

「13の6」「14の8」なお検討

◇質疑応答（競技規則全般、その他について）

Q1　ベンチに入れる人数が改正されたが、退場者が出た場合にどうするか。椅子を多く用意した方がよいのではないか。

A　従来からベンチについては困難な問題がある。そのためにベンチに入れる数を11名としていたが問題の解決にはならなかった。今回は競技規則にある通り役員４＋交替プレイヤー５＝９とした。椅子を退場者のために別に用意することは、９名を越える数がベンチに入ることを誘発するので配置しない（ベンチには椅子を９個配置する）。

Q2　ベンチに入れる役員が４名になったが、そのチーム役員が４名に満たなかった場合のベンチの人員はどうなるか。

A　15名のエントリーがあっても５名の交替プレイヤーだけがベンチに入ることができる。したがって３名はベンチに入ることはできない。役員については、その内容を問わない。その競技に関係しないプレイヤーが役員の数の範囲内でベンチに入ることはできる。しかしこの場合、その競技に出場するプレイヤーと明確に区別のできる服装でなければならない。

Q3　13の6（原注）、14の8（原注）について

この項についてかなり長時間にわたって質疑が行なわれた。しかし本文に変更がないので従来と同じであるとの結論となりさらにルール研究委員会において検討することとした。

Q4　この改正によって以前のようにアドバンテージを見るようになるのか。

A　一九七二年以来今日までアドバンテージについては、原則としてシュートのときだけ見る、反則は反則として笛を吹くようにして来た。このことは今回の改正でも従来の姿勢に変りはない。

Q5　14の2（原注）に「ペナルティースローが行なわれている間相手側はいかなる方法によってもスロアーを妨害することはできない。……」とあるが、「いかなる方法」とは何をさすのか

A　スロアーに影響を与えるすべての言動をいう。

Q6　ゼスチュアーは、旧競技規則書にあるよりも少なくなっているが、それについて説明してほしい。

A　一九七五年のＩＨＦ国際審判員研修会において決定されたハンドサインを採用したのである。この他のものについて、例えばキックなどについてプレイヤーが混乱している場合には適切なサインをすることは必要であるし差しつかえない。これらのうち笛と同時に必ずしなければならないゼスチュアーは、４警告　５退場　６追放　９フリースローの方向の指示　15得点　16レフェリータイムなどである。

Q7　競技中負傷者が出た場合、負傷者が自分の近くから競技場をはって出ることがある。この処置について。

A　負傷者が交替位置から交替することができないような状態であれば、レフェリーは競技を中断すべきである。そして負傷者を処置し、交替プレイヤーを交替位置から入場させて競技を再開すべきである。

以上が質疑応答の主な点である。

◇

▽出席者　蒲山（鹿児島）、藤田（熊本）、日野（福岡）、柿崎（大分）、原田（長崎）、土井（佐賀）、関谷（宮崎）、柳井（山口）、永井（岡山）、船江（島根）、重栖（鳥取）、東（広島）、野中（愛媛）、白井（兵庫）、岡本（大阪）、荒井（滋賀）、塩崎（和歌山）、土井（奈良）、藤本（京都）、村井（石川）、阿部（新潟）、加藤（長野）、金原（富山）、東（福井）、鈴木（静岡）、梶川（三重）、吉田（岐阜）、川島（愛知）、近藤（東京）、斉藤（茨城）、斉藤（山梨）、上久保（埼玉）、山下（栃木）、川村（千葉）、栗城（神奈川）、伊崎（群馬）、村上（福島）、工藤（青森）、佐々木（岩手）、斉藤（宮城）、豊島（秋田）、八重樫（北海道）各都道府県協会審判部長、藤田（全日本学連）、嶋田（高体連）藤田（全日本教職員連、兼）各全国連盟審判部長

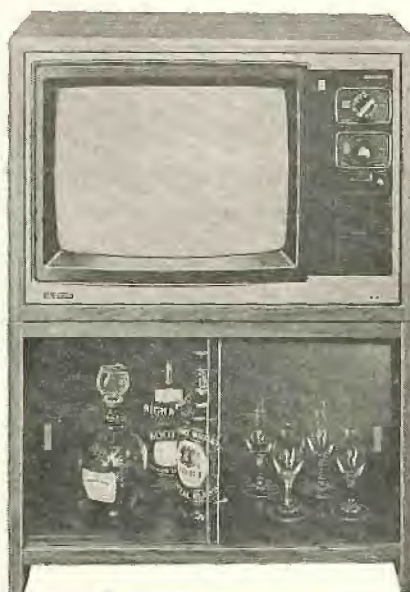
日野（九州、兼）、上田（中国）、岡本（近畿、兼）、金原（北信越）、鈴木（東海、兼）、由利（東北）、八重樫（北海道、兼）各ブロック審判部長

安藤日本協会審判部長、佐野、大塚、上久保（兼）、島田、田中、迫各規則研究委員

入江信太郎、佐藤敦、藤田八郎（兼）、嶋田新太郎（兼）各審判審査委員

VICTOR

■今日の声に耳をかたむけ 明日の技術に生きるビクター



さらに明るく、白もいちだんと鮮やかに！

18型　C-5218型

(本体)標準価格 139,800円

(アンテナ・工事費別)

別売り：テレビスタンド(ガラス戸付き)

CFT-521　6,600円



ビクター純白カラー

●ビクターローンをご利用下さい

雷災からゴルファーを守る大崎のFYケージ



東京ゴルフ倶楽部

いま、安全なゴルフ場作りが、社会的なニーズを呼んでいます。

もしプレー中に雷に会ったら、せっかくのナイスショットも、命がけで逃げなければなりません。そんな時、安全な待避小屋が備えてあれば、あなたのゴルフ場は完璧です。

落雷は、時、場所、人を選びません。安全な待避小屋→大崎のＦＹケージを適所に設置して中に入れば、雷災から完全に保護されます。



大崎電氣工業株式會社

本社　東京都品川区東五反田二丁目二番七号

☎(03) 443−7171 (大代表)　〒141

FYケージ

防雷シエルター

工業所有権出願中

特許３件

実用新案４件

意匠５件

商標１件

〈日本体育学会発表資料〉

ハンドボール選手の体力に関する研究
〜インターハイ出場選手について〜

中出盛雄、相浦義郎（大阪薬科大学）
望月伸三郎（大阪府立寝屋川高）、北岡大覚（大阪府立門真高）

◇研究目的

その第一は高校ハンドボール選手のトップレベルである全日本高校選手権(インター・ハイ)出場選手の体力の実態を把握し、そのトレーニング効果がどのように現われているのか、また一般生徒と比較し、どのような特徴を示すのか云いかえれば高校正課体育種目としてのハンドボールの体力的特性を探ろうということであり、第二の目的はハンドボール競技がオリンピック正式種目に加入され、ますます発展している現在、日本のナショナルチームに連なるインターハイ選手の輩出の現状をとらえてみようという観点からの調査研究である。

今回は、主に第一の目的では昭和43年より49年までの測定値を一覧にし、Tスコアを使い検討した第二の目的では高校ハンドボール選手の理想像といろべき優秀選手（毎年インターハイで高体連による選出）をピックアップした。

これらのデータ分析より若干ではあるが、知見を得たので報告する。

◇研究方法

われわれが扱った測定項目は別掲（線内）のとおりである。

このすべての測定項目は昭和43年の第1回の測定から採用したものである。

したがって体力要素を形態と技能からとらえようとしたので表記の2項に大別している。

〈形態〉では身長、体重、胸囲指先長（垂直立位で利腕の上肢を挙上し、床面から指先端までの距離をもってあらわした）、手長(尺側茎突点より指先端まで）の左右手幅（手掌をできるだけ外側にひらかせ拇指と小指の先端から先端までの距離）の左右の8項目を測定した。

測定項目

▽形態　①身長、②体重、③胸囲、4指先長（垂直立位で利腕上肢挙上の高さ）、5手長(右)、6手長(左)、7手幅(右)、8手長(左)

▽機能　①握力(右)、②握力(左)、③背筋力、4反復上体起こし、⑤立位体前屈、⑥伏臥上体そらし、⑦垂直とび、⑧反復横とび、⑨「9m」3往復走、10踏台昇降（5分間・男50cm、女40cm）＝○内数字の項目は文部省調査共通項目

〈機能〉については、握力、背筋力、立位体前屈、伏臥上体そらし、垂直とび、反復横とび。以上6項目は体力診断テストと同一方法によって、また反復上体起こしは腹筋の筋持久力をあらわすと考えられる項目で、仰臥姿勢となり両手を首のうしろにくみ、上体を肘が膝につけるまで起こす。男子は30秒間、女子は20秒間のできる限りの回数をもってあらわした。「9m」3往復走とは、スタートラインから9mのところに、3個のハンドボールを置き、合図により1回1個のボールを持ち帰る。すなわち、9mを3往復するわけである。この時間を計測する。

踏台昇降は男子50cm、女子40cmの踏台昇降運動を5分間行なわせ指数を算出する方法で行った。

これら10項目を測定した。

測定の場所は、8月初旬の各インター・ハイの会場で行い、また被検者は昭和43年は無作為であった

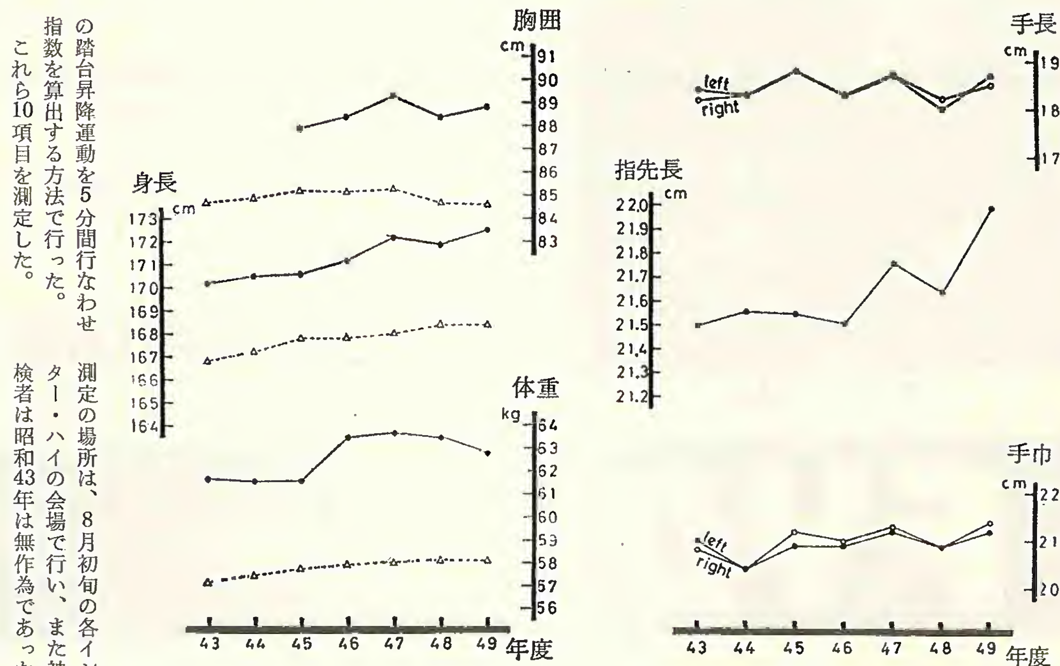


図1・男子の身長・体重・胸囲・指先長・手長・手幅

が、昭和44年からは男女それぞれ上位16チームを対象とした。

（測定チーム数）▽昭和43年度（広島）無作為に男14、女12チーム▽44年度（群馬）上位16チームを対象に男12、女13チーム、▽45年度（滋賀）上位16チームを対象に男13、女14チーム▽46年度（愛媛）上位16チームを対象に男13、女12チーム▽47年度（山形）上位16チームを対象に男13、女12チーム▽48年度（三重）上位16チームを対象に男9、女7チーム▽49年度（福岡）上位16チームを対象に男10、女8チーム

各チーム7名（主力選手）を測定7年間の総計は、男子が76チーム532名、女子も76チーム、532名、総計一、〇六四名のデータが集積された。

◇結果と考察

28頁から31頁までの図（1～7）は、過去7年間の年次変化を表わしている。

文部省の体力診断テストと同項目は、一般生徒との比較ということから、文部省体育局報告の全国平均値を使い、これを白三角の点線で示した。

また、これはインターハイの主力選手構成の大部分が2、3年生であることから、全国平均もこれにならい、16～17才の平均値を使っている。

インターハイ選手は黒丸実線で示した。

図1（29頁）では、男子形態の身長、体重、胸囲、手長、指先長、手幅があらわされている。

身長では、インターハイ全国平均とも順調な伸びを示しているがインターハイの方が伸びがよく、差は約3～4cm上まわっていることがわかる。

また、体重では約4～5kg上まわっている。

胸囲では全国平均とインターハイが約3cmの差で、やや同じようなラインを示している。

このように形態の代表的項目では明きらかにインターハイ選手が大きいことを示している。

手長、手幅の項目は、黒のプロットが左、白のプロットが右をあらわしている。

手長、手幅ともあまり変化はなく、それぞれ18・5cm、21・5cmのところを上下している。

指先長では約21・5cmであったが、この3年間動揺が大きく、まだこの数年間の測定が必要と思われる項目と考える。

図2～図4（29頁）は、男子機能面をあらわしている。

安定したプロットを示しているのは握力、反復上体起こし、立位体前屈、垂直とび、「9m」3往復走の測定項目で、逆に不安定な項目では背筋力、反復横とび、踏台昇降、伏臥上体そらしである。

握力 kg 52 50 48 46 44 42
背筋力 kg 190 180 170 160 150 140 130 120
反復上体おこし 回 23 22 21 20
43 44 45 46 47 48 49 年度

図2・男子の握力・背筋力・反復上体おこし

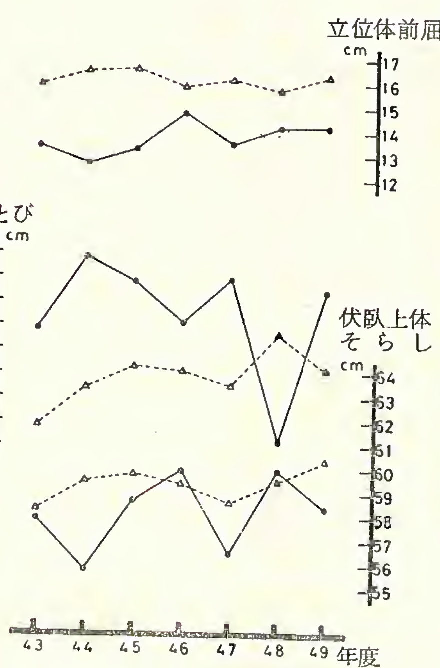


図3・男子の立位体前屈・伏臥上体そらし・垂直とび

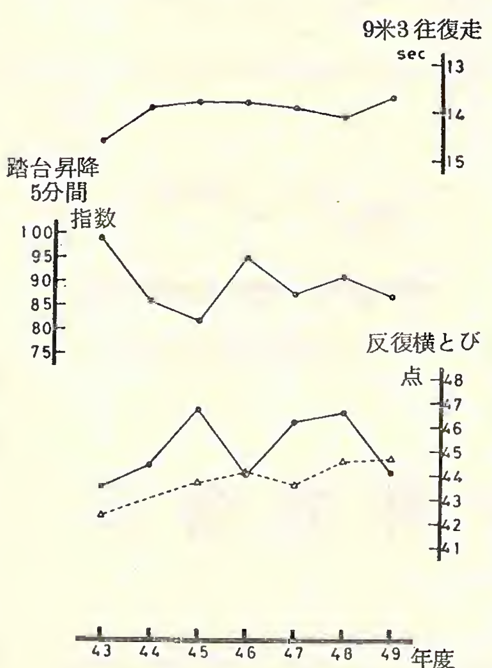


図4・男子の9m3往復走・踏台昇降・反復横とび

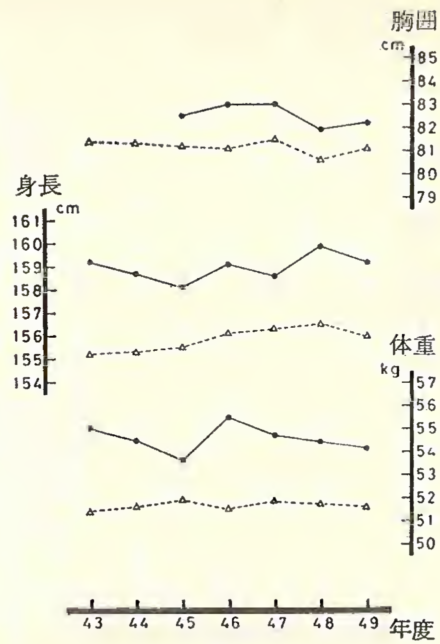


図5・女子の胸囲・身長・体重

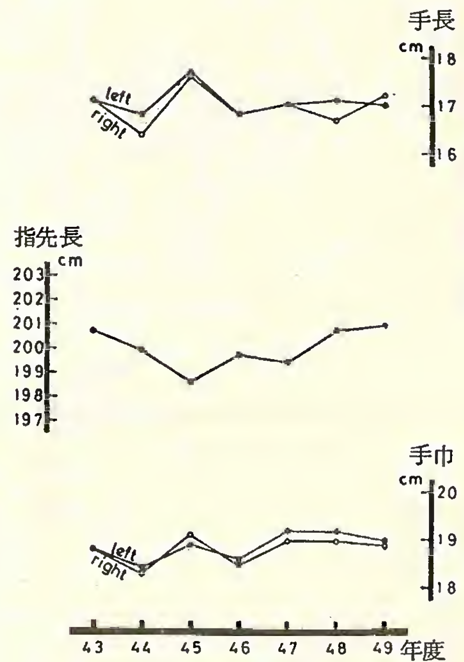


図6・女子の指先長・手長・手幅

全国平均との比較では握力、背筋力の筋力要素と敏捷性の反復横とびがやや上廻り、垂直とびは48年に全国平均より下廻っているが全体的には全国平均を大きく上廻っている。

また、インターハイ選手が全国平均より劣るのは立位体前屈と伏臥上体そらしの柔軟性項目である。

女子の形態をみてみよう。図5と図6である。

傾向は男子とほぼ同様で、インターハイと全国平均を比較した項目については、プロットが同じようなラインで安定しているといえる。

身長で約3cm、体重で約2・5kg、胸囲で約1・5cmの差がありそれぞれ全国平均を上廻っている

31頁の図7は、女子の機能の項目を示している。

7年間のプロットが比較的安定している項目には握力、反復上体おこし、立位体前屈、「9m」3往復走で、不安定な項目には伏臥上体そらし、踏台昇降であり、これらの項目もまだ数年間の測定が必要と思われる。

全国平均との比較では、柔軟性の立位体前屈がほぼ同等であるが他の項目ではすべてインターハイが上まわっている。

垂直とびは昭48和年に全国平均まで落ちているが、反復横とびとともに、特に秀れている項目といえそうであり、これは自らの身体を運ぶために秀れた能力であることを指しているといえよう。

つぎに、年次を考慮せず、7年間のデータを一同にし、Tスコア値より各項目を比較し総合的に探ろうとした。

図8(32頁)の両円がそれである男子(上)は、文部省体育局調査の全国平均(16～17才の平均値)を基準にし、インターハイ選手の各測定項目が、プロフィールの形であらわしている。

中円の部分が文部省値でやや太い線がインターハイをあらわしている。

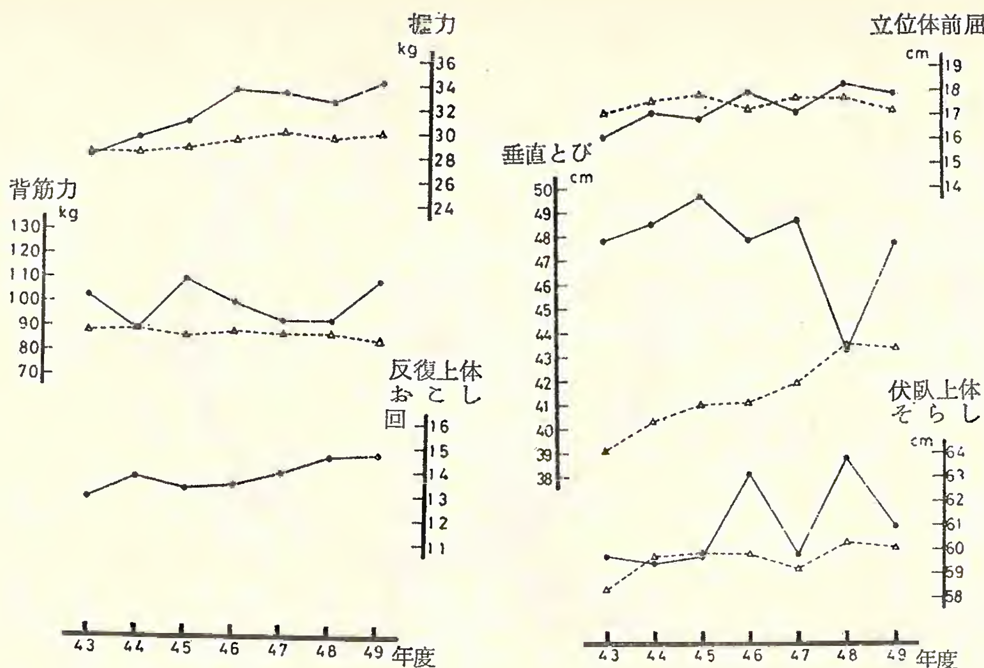
身長、体重、胸囲、背筋力、反復横とびが、それぞれインターハイの方が優り、中でも胸囲の差がもっとも大きい。また、伏臥上体そらし、立位体前屈の柔軟性の項目が劣り、他の項目はそれほど変わらない。

女子(32頁下)は、柔軟性の2項目を除く、他のすべての項目においてインターハイ選手が秀れている。特に目立つものをあげると、背筋力、反復横とび、垂直とびの3項目であり、男子の形態の秀れているのに比較し、機能の差が顕著であることがわかる。

以上のことから、インターハイ選手は、男子においては形態、機能ともに女子においては形態が秀れ優っていることが認められる。

このことからそれぞれの比較、およびそれぞれの差の生ずる原因について考察を進めたのが図9（33頁）である。

縦軸に形態、横軸に機能をあらわしている。



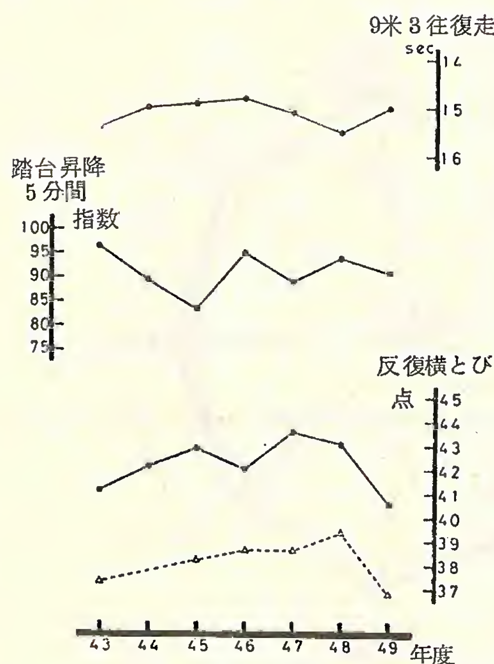


図7・このページの図表はすべて「女子」機能のものです

この数値は形態、機能のそれぞれの項目のTスコアの平均値であらわしている。

実線がインターハイ選手をあらわし、点線で文部省の全国平均を示している。

文部省体育局調査の全国平均を基準として算出したTスコアであるから、文部省全国平均は形態・機能とも50点の位置である。

男子では、インターハイ選手が形態で56・5と大きく、機能面ではインターハイ選手が0・5の差があるだけであまり変わらない。

女子においては、インターハイ選手が形態・機能ともにそれぞれ54・8、54・2と大きく優る。

ところで、これをなんと解すればよいであろうか。われわれは次のように考えている。

男子の問題点は、機能の中ですぐれている背筋力と、柔軟性の2項目で劣っているところが相殺され、その差を小さくしてしまったことである。

したがって、ハンドボールを行うことにより、体力要素のなかで特に鍛えられるものがあることは事実である。

しかしながら、インターハイ選手は、体力面をトレーニングで強調することより、技術面のトレーニングに走りすぎてはいないか、ということである。

一方、女子ではインターハイ選手のように質量の上で鍛えられた場に、トレーニング効果が増大すると考えられる。

次に第二の目的であるインターハイ出場選手が近い将来、日本ハンドボール界の頂点になるであろうという予測を観点にし、考察した。

7年間の測定に参加した全インターハイ出場選手と各年度の優秀選手（高体連選出）を抽出し、分析した。

その一らん表が34頁のものだ。

この表は、男子と女子とをそれぞれ優秀選手と全インターハイ出場選手とに分け、測定人数、平均値標準偏差値を示している。

この表から、男女とも優秀選手は、全身持久性の測定項目である踏台昇降（5分間）以外のすべての項目において、インターハイ全選手を上廻っている。

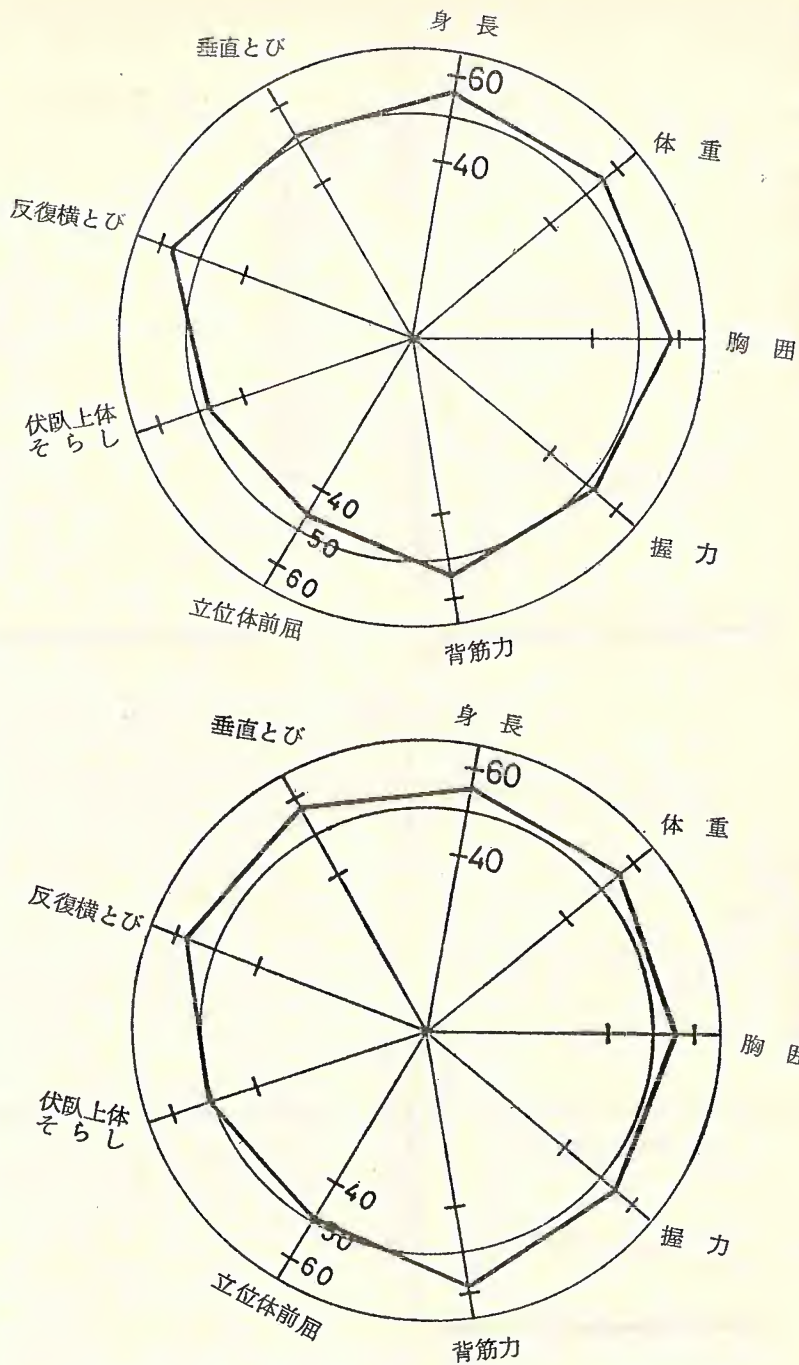
特に、男子形態面の項目である身長で2・1cm、体重で3・2kg胸囲で2・4cm大きく、機能面では握力、背筋力、反復横とびが大きい。

女子においても、男子と同ようの傾向を示している。

さらに各年度の優秀選手が、どのような特徴を示すかをみたものが図10（33頁）である。

この図は年度別に優秀選手をピックアップし、昭和43、44年などとあるのは、優秀選手の人数が毎年一定でなく、10人前後のグループとしたためで、男子のS47は15名女子はS45に12名の測定者が含まれていたので独立させてみた。

図8・文部省・インターハイ全選手のプロフィールによる比較＝上の円は男子、下の円は女子



縦軸に形態の項目のTスコア平均値を、横軸に機能の項目のTスコア平均値を示した。

図10の●が各年度の平均値であり、○は昭和43~49年度までの全優秀選手の平均値をあらわした。

また、50点の基準はインターハイ全選手の記録である。

男子は、昭和43~47年までは、年次的に上昇しているが、48、49年では低下している。しかも、形態の方向に伸びていることが判る

女子では、43、44年は形態を中心に優秀選手が選考された傾向にあり、46、47年は形態、機能ともによく鍛えられた大型選手群という傾向があらわれている。

男女とも、形態と機能のバランスがとれた傾向の選手が選出されている、といえる。

次に、男子について、インターハイ出場選手とその優秀選手を、日本の最高チームである全日本（ナショナルチーム）と比較したのが、図11（34頁）である。

図はインターハイ全選手の記録を基準とし、Tスコアであらわした。

全優秀選手を黒丸実線で、47年度全日本チームを三角点線で示した。

また、身長、体重、胸囲、垂直とび、背筋力、握力の代表的項目について比較した。

全優秀選手が基準線の50点と平行して約55点ラインに位置している。

これに対し、全日本チームは形態の項目で相当上まわっているにもかかわらず、機能面では垂直とび、背筋力がすぐれていたのであるから、さらにこの種のトレーニングを課し、将来全日本チームを背負って立つ高校ハンドボール優秀選手であるならば、全日本チームの平均値を引き上げ、上廻ることが大切と考える。

一方、差の大きい形態、機能のレベルアップの目標到達点がみいだされなければならないと思われる。

◇まとめ

1、昭和43~49年まで、7年間の年度別、男女それぞれの平均値、標準偏差値を求め、体力診断テストと同項目は全国平均と比較してみたところ、

a　形態の代表的項目では男女とも明らかに大きいことを示し、推移も順調な伸びが認められた。

b　機能面で、男子が全国平均より劣るのが、立位体前屈と伏臥上体そらしの柔軟性項目であり、他はほとんどインターハイ選手が優っている。

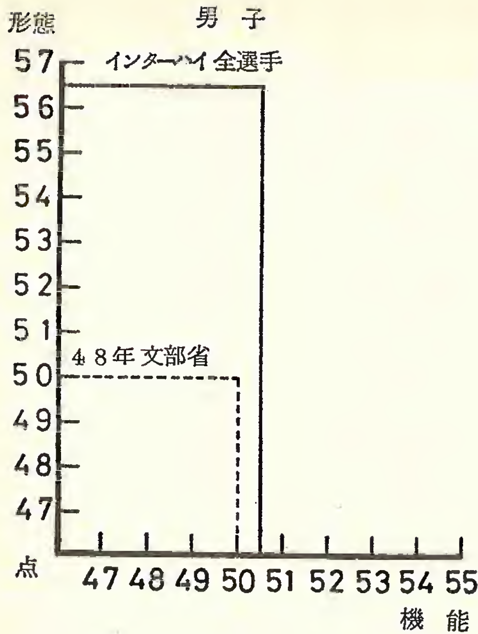
また、伏臥上体そらし、反復横とび、踏台昇降では年次変化が大

きく、まだこの数年間の測定が必要と思われる項目であった。

c　女子では柔軟性の立位体前屈が同等であるが、他の項目ではすべてインターハイ選手が上まわっていることが認められ、特に反復横とび、垂直とびは秀れた項目である。

2、7年間の安定値を一同にし、Tスコア値（文部省値基準）より比較してみると、

a　男子では文部省値と比べ、



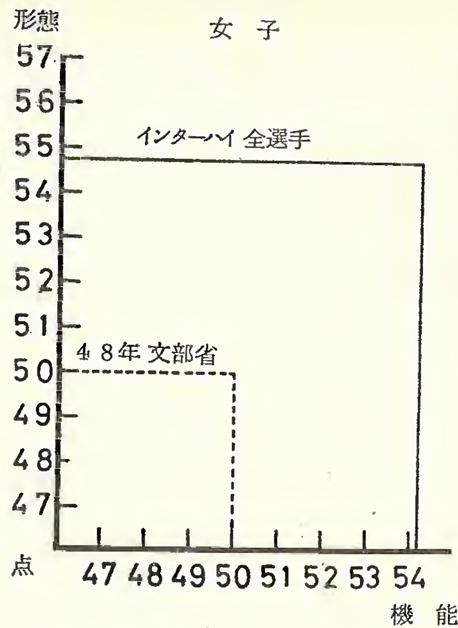
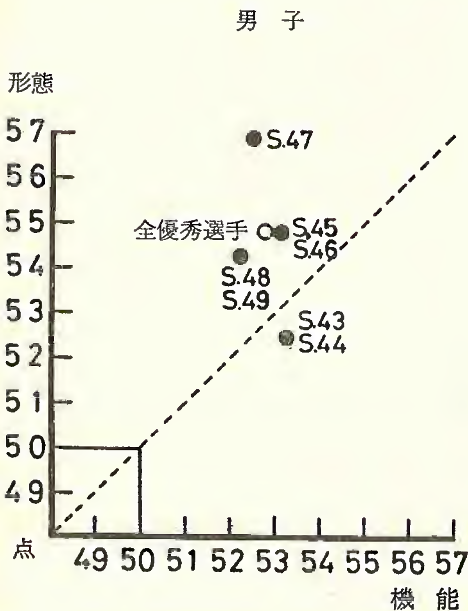


図9・文部省資料とインターハイ全選手を形態面と機能面より比較



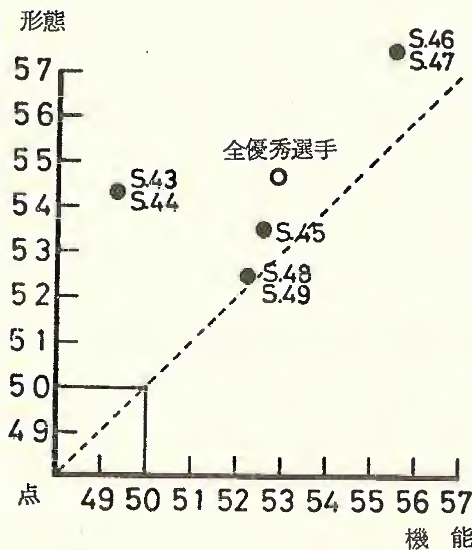


図10・年度別（昭43～昭49）優秀選手の形態面・機能面からの比較

性別	対象	項目 / 単位	身長	体重	胸囲	指先長	手長 右	手長 左	手幅 右	手幅 左	筋力 握力 右	筋力 握力 左	筋力 背筋力	筋力 反復上体おこし	柔軟性 立位体前屈	柔軟性 伏臥上体そらし	瞬発力 垂直とび	敏捷性 反復横とび	敏捷性 9m三往復走	持久力 踏台昇降5分間
			cm	kg	cm	cm	cm	cm	cm	cm	kg	kg	kg	回	cm	cm	cm	点	秒	指数
男子	全優秀選手	人数	49	49	49	47	48	48	48	48	49	49	49	44	49	48	45	42	44	44
		平均値	178.3	66.1	91.0	219.4	18.8	18.8	21.8	21.7	52.2	48.4	155.7	22.4	14.1	60.7	64.3	46.9	13.8	87.4
		標準偏差値	5.3	5.9	4.3	7.8	0.9	0.9	1.4	1.2	7.2	5.5	28.0	2.7	5.8	6.5	5.1	4.1	0.4	11.8
	インターハイ全選手	人数	529	529	347	509	528	528	525	526	522	523	526	518	529	526	521	515	516	512
		平均値	171.2	62.5	88.6	216.5	18.5	18.5	21.0	20.9	48.5	44.3	147.1	22.1	13.6	57.9	62.7	45.1	14.0	80.0
		標準偏差値	5.2	6.0	4.4	7.3	0.9	0.9	1.2	1.2	6.6	6.1	23.9	2.4	5.4	7.3	6.5	4.0	0.6	11.8
女子	全優秀選手	人数	47	44	44	42	41	40	44	44	45	43	47	43	47	47	46	46	44	45
		平均値	161.1	57.1	83.6	203.0	17.4	17.6	19.4	19.4	36.8	33.1	108.2	13.9	16.8	61.3	50.0	43.8	14.8	90.6
		標準偏差値	3.7	4.5	2.6	5.0	0.8	0.9	1.0	1.0	4.7	4.0	19.9	2.9	5.6	6.4	5.1	4.1	0.5	12.6
	インターハイ全選手	人数	520	521	348	508	519	520	518	519	520	514	517	515	517	516	518	512	515	507
		平均値	158.9	54.5	82.6	199.9	17.0	17.1	18.9	18.8	33.3	30.2	100.0	13.7	17.2	60.6	48.0	42.2	15.0	90.7
		標準偏差値	4.6	5.2	3.5	6.9	0.8	0.9	1.1	1.1	5.0	4.7	18.4	1.7	5.0	6.1	5.5	3.3	0.6	12.1

形態では身長、体重、胸囲が優れなかでも胸囲の差がもっとも大であった。

ｂ　機能面項は背筋力、反復横とびが優れているのに対し、柔軟性の2項目が劣り、他はやや秀れている状態である。

ｃ　女子では柔軟性の2項目を除く、他のすべての項目において優れていることが認められた。

3、全被検者のなかより各年度の優秀選手を抽出し分析してみると

ａ　その年次推移から、男女それぞれ形態、機能ともに47年まで上昇しているが、48、49年で低下がみられる

ｂ　男子については、優秀選手の選出が機能よりも形態の方向に伸びていることが認められた。

ｃ　男子の優秀選手を全日本チームと比較すると、優秀選手の選出が形態の方向に伸びているにもかかわらず、形態では、まだ相当下廻っている

ｄ　また機能面では、握力にかなりの差があるが、垂直とび、背筋力はあまり変らない傾向にあることが認められた。

この稿を草するにあたり日本体育大学の石井喜八教授のご指導をいただいたことを感謝いたします

↑全優秀選手・インターハイ全選手の体力測定一覧表　（昭和43〜49年度）

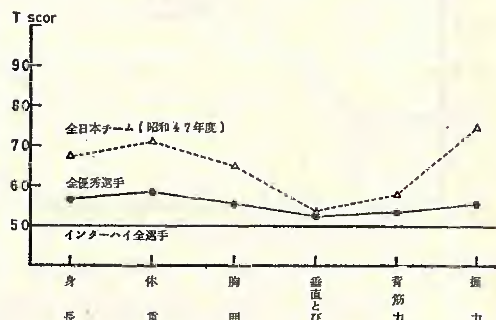


図11・全日本(昭47)、インターハイ全選手・全優秀選手（ともに昭43〜49）の比較

【追】高体連ハンドボール部が優秀選手の選考を49年度限りで廃止したことは残念です。

いろいろと、選考についての不平、不満を受けいれて、よりよい方向に改善していく姿勢が欲しかった。不平や不満があるから廃めるというのは、自分たちの選考方法が絶対正しく、何故に文句があるかとも云える開きなおった態度は、非教育的で、よりよい人材を育てるといった教育理念から反するような気がしてならない。

今後の高体連発展のためにも一考を要する問題であろうと思われてなりません。　（望月伸三郎）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社	豊田工機株式会社
新日本製鉄株式会社　名古屋製鉄所	豊田合成株式会社
自衛隊春日井	株式会社　トーメン名古屋支社
大同製鋼株式会社	日本碍子株式会社
中部電力株式会社	パイロットインキ株式会社
トヨタ自動車工業株式会社	伏原紡織株式会社
トヨタ車体株式会社	ブラザー工業株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社	三菱自動車工業株式会社　名古屋自動車製作所
豊田自動織機株式会社	

（アイウエオ順）

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

ルーマニア安定示す

〜ルーマニア国際〜

オリンピック予選が終わり（本誌前号既報）、再び国際交流が活溌となったヨーロッパで、注目を集めたのは3月末のルーマニア国際。

世界選手権優勝国の特権で、オリンピック予選を免除されていたルーマニアが、久々にベストメンバーを揃えて登場。キクシド、ストックル、GKペヌらの活躍でハンガリーの食い下りを許したものの、順当に優勝を飾った。

オリンピック落選を同情されている東ドイツは、次回を期してガンショウ、ラケンマッハ、GKヴァイスら日本でもおなじみの名手たちをはずして早くも若返りを打ち出し、P・ティーデマン（昭49来日時のアシスタントコーチ）をヘッドコーチにすえて再スタートを切った。

東ドイツ 28（12―11、16―11）22 ブルガリア
ルーマニア 29（18―11、11―11）22 ルーマニアB
ユーゴ 20（10―10、10―10）20 ハンガリー　引き分け
ユーゴ 22（16―8、6―9）17 ルーマニアB
ルーマニア 27（15―11、12―8）19 ブルガリア
ルーマニアB 13（5―6、8―6）12 東ドイツ
ルーマニア 17（7―8、10―6）14 ユーゴ
ハンガリー 18（6―8、12―9）17 ブルガリア
ルーマニアB 19（8―7、11―6）13 ブルガリア
ユーゴ 23（11―9、12―12）21 東ドイツ
ルーマニア 19（9―9、10―10）19 ハンガリー　引き分け
ユーゴ 27（16―8、11―10）18 ブルガリア
ハンガリー 21（8―7、13―13）20 ルーマニアB
東ドイツ 12（4―4、8―8）12 ハンガリー　引き分け
ルーマニア 21（10―9、11―5）14 東ドイツ

【順位】①ルーマニア4勝1分②ユーゴ3勝1分1敗③ハンガリー2勝3分④ルーマニアB2勝3敗⑤東ドイツ1勝1分3敗⑥ブルガリア5敗

ルーマニアの動きが目ざましい昨シーズンは、ほとんど国内に閉じこもっていたが、オリンピックイヤーが明けると、にわかに活溌となり、1月から3月なかばまでに次のような記録が伝えられてきている。

照準はモントリオールでの金メダル。ミュンヘン大会前、優勝したユーゴは、六千キロ・バスツアーという強化転戦を試みているが今年のルーマニアはそれに近くなりそう。

ルーマニア 30―22 ブルガリア
ルーマニア 26―25 ブルガリア
東ドイツ 17―16 ルーマニア
東ドイツ 19―16 ルーマニア
ポーランド 13―10 ルーマニア
ルーマニア 17―17 ポーランド
ハンガリー 22―14 ルーマニア
ルーマニア 22―17 ハンガリー
ルーマニア 27―20 スペイン
ルーマニア 25―21 スペイン

東ドイツ、女王の貫録

〜東欧6ケ国対抗〜

世界選手権後、女子で最初のビッグエベントと思われる東欧6ケ国トーナメントが2月末チェコで行われ、クイーン東ドイツが貫録の優勝を飾った。

上位3国はいずれもモントリオール出場を決めている国。

ハンガリー 21―16 ポーランド
チェコ 17―16 ブルガリア
東ドイツ 18（10―9、8―8）17 ソ連
ソ連 23―16 ブルガリア
チェコ 21―15 ポーランド
東ドイツ 11（6―7、5―4）11 ハンガリー
東ドイツ 23―15 ブルガリア
チェコ 14―12 ハンガリー
ソ連 22―12 ポーランド
ハンガリー 14―11 ブルガリア
ソ連 17―16 チェコ
東ドイツ 25―17 ポーランド
ブルガリア 19―13 ポーランド
ソ連 18（7―9、11―9）18 ハンガリー
東ドイツ 20―12 チェコ

【順位】①東ドイツ4勝1分②ソ連3勝1分1敗③ハンガリー2勝2分1敗④チェコ⑤ブルガリア⑥ポーランド

アメリカ引分け　日本女子が警戒を強めているアメリカ女子がこのほどアイスランドへ遠征、11―11で引き分けた。

アメリカは前半8―1とリードを奪ったが、そのあとアイスランドの粘りにあって同点にもちこまれた。

男子は仏に4連敗　また、アメリカ男子は、3月末からフランス遠征を行い、フランス・ナショナルと4試合をまじえ、1勝もあげられずに終った。

スコアは19―12、25―20、24―18、20―17で、アメリカではアブラハムソン（191cm）の活躍が目立つ

トルコ協会発足　ヨーロッパ地域でギリシャとともに数少いハンドボール未活動国だったトルコに協会発足の動きがある。

近着のIHF公報が伝えているもので、2月4日、アンカラでその準備会議が開かれた、という。筆者の調べでは、トルコは30年ほど前、いちどIHFに加盟を打診したことがある。

ガンショウ〝引退〟　東ドイツのエースとして11年間にわたって大活躍、一昨年秋、来日して〝黄金の左腕〟を存分に披露したライナー・ガンショウが、オリンピック予選を最後に、ナショナルチームから〝引退〟した。

ガンショウは、世界ハンドボール史上初の公式国際試合出場200回をマークしており、通算得点は実に736。まだ30才とあってホームクラブのエムポール・ロストックでは今後も第一線に立つ予定。

各国選手権大詰め　オリンピックを控えているため、今シーズンは各国選手権（全国リーグ）の終幕が早いようで、すでにルーマニアは男子がステアウア・ブカレスト、女子がティミソアラ大学、チェコ男子はブラティスラバ・レッドスターズの3連勝に決まった。

あと2週を残す西ドイツは北地区がグンメルスバッハ、南地区はミルバショーヘンとディーゼンバッハが首位に立っている。

男女ともユーゴが優勝

～クラブの3大会終幕～

男子ヨーロッパ・カップ

第16回ヨーロッパカップは、準決勝でボラク・バンヤルカ（ユーゴ）×VfL・グンメルスバッハ(西ドイツ)という有力チーム同士が顔を合わせ第1戦16―16の引き分けのあと、第2戦はバンヤルカがホームコートの利を活かして15―13で制勝、決勝戦は4月11日、同地に、一方から勝ちあがってきたKFUM・フレデリシア（デンマーク）を迎えて行われ、予想どおりバンヤルカが地元の五千近いファンの期待に応えて17―15で勝ち、ユーゴに初めてタイトルを飾った。

フレデリシアもよく戦ったが地力にやはり差があった。

今大会は、前回優勝のASKV・フランクフルト(東ドイツ)をはじめ、ソ連、ルーマニアなどの強国が代表を送らず(=理由不明)、上位戦はやや迫力を欠いた。

また、人気チーム・グンメルスバッハの敗退で、決勝の会場が恒例のウエストハーレン(西ドイツ)からバンヤルカに移された。

▽準決勝・1回戦

KFUM・フレデリシア（デンマーク） 21―16 フレデンスボルグ・オスロ（ノルウエー）

ボラック・バンヤルカ（ユーゴ） 16（分）16 VfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）

▽同・2回戦

KFUM・フレデリシア 22―17 フレデンスボルグ・オスロ

ボラック・バンヤルカ 15―13 VfL・グンメルスバッハ

▽決勝

ボラック・バンヤルカ 17（11―7、6―8）15 KFUM・フレデリシア

＜得点者＞【バ】ラゼノビッチ6、セレク、ゴリク、ブジノビッチ、カラリッチ、アンカニン各2、ポポビッチ

【フ】F・ハンセン4、D・ニールセン、アンデルセン各3、マトセン、ペーターセン各2、ソーレンセン1

女子ヨーロッパ・カップ

第15回女子ヨーロッパ・カップは、4月1日ベルグラードで三千のファンを集め、ラドニッキ・ベルグラード（ユーゴ）×モラ・スウイフト・ロールモンド（オランダ）の決勝戦を行い、ベルグラードがルキック、インバンカ、ヤドランカからナショナルプレイヤーの活躍で初優勝を飾った。

ユーゴ代表の優勝は初。男子同様東欧の主力が棄権していたため、オランダ代表が2位へ食いこんだが、いわゆる〝西側〟の国のチームが、準優勝したのは、10年前のHG・コペンハーゲン（デンマーク）以来のこと。

イスラエル代表のハポエル・ラアマナは、2回戦でポリセンズ・ストックホルム（スウェーデン）に敗れている。

▽準決勝・1回戦

ラドニッキ・ベルグラード（ユーゴ） 20―7 アドミラ・ウイーン（オーストリア）

スイフト・ロールモンド（オランダ） 14―9 ポリセンズ・ストックホルム（スウェーデン）

（注）第2戦の記録不明

▽決勝

ラドニッキ・ベルグラード 22（11―4、11―8）12 スイフト・ロールモンド

グラノリエルス、ダンケルセン破り栄冠

カップ・オブ・カップス

今シーズンから始められた男子ヨーロッパ・カップ・オブ・カップスの決勝戦は、GW・ダンケルセン（西ドイツ）と、バロンマノ・グラノリエルス（スペイン）という日本のファンにとっては親しみのある両チームによって争われ、グラノリエルスが延長の末、初代チャンピオンの座についた。

ダンケルセンは47年4月、グラノリエルスは50年4月、いずれも日本の新シーズン開幕国際試合に招かれているチーム。

決勝は、4月11日バルセロナで五千のファンを集めて行われた。

前半は、ダンケルセンが、2m選手ブッシュや、アイスランドから招いているヨンソンらの活躍でリードしたが、熱狂的な声援を受けるグラノリエルスは、終盤盛り返して追いつき延長、ベテラン・プラトの巧技とGKパゴアーガの堅守でグラノリエルスが勝利を飾った。

グラノリエルスのメンバーは、しばらく第一線を退いていたプラトのカムバック以外は、ほとんど昨春来日した時と変わらない。

▽準決勝・1回戦

バロンマノ・グラノリエルス（スペイン） 15（9―6、6―7）13 オプサル・オスロ（ノルウエー）

GW・ダンケルセン（西ドイツ） 15（8―7、7―6）13 BSV・ベルン（スイス）

▽準決勝・2回戦

バロンマノ・グラノリエルス 13（6―5、7―8）13 オプサル・オスロ　引き分け

GW・ダンケルセン 22（15―6、7―9）15 BSV・ベルン

▽決勝

グラノリエルス 26（9―10、12―11：3―2、2―1）24 ダンケルセン

＜得点者＞【グ】サガリバイ9、プラト、アペラドール各4、ボレゴ、カラブイグ各3、カステルビ2、ゴメス1

【ダ】ブッシュ、ヨンソン各5、アセルソン4、クラマー3、ベッカー、ヴァルツケ、ブンデンボーム各2、カーシェル1

男子31年、女子33年以降生まれ

世界ジュニア選手権

IHF(国際ハンドボール連盟)は、初の世界ジュニア選手権の開催準備を進めているが、このほど男子は来年4月上旬スウェーデンで、女子は来年3月18日から25日までルーマニアで行うことを正式発表した。日本の態度は未定。

年令は、男子は一九五六(昭31)年以降生まれ、女子は一九五八（昭33）年以降生まれ。

また、今秋の第10回男子世界選手権Cグループは11月27日から12月5日までポルトガルで行われることになった。

この大会は当初イギリス、そのあとフアロー諸島、イタリアなどが開催地に予定されていた。

未定のままだった第7回女子世界選手権は一九七八（昭53）年チエコのブラチスラハを中心に行われる予定。

このほか、第16回IHF通常総会の日程が今秋10月3、4日ポルトガルと決まった。

ハンドボールタウン

HAND BALL TOWN

ハンドボールタウン

☆今月から当欄を新設します。

一言で云うなら「ご案内欄」。ご利用下さい。なお、お寄せいただいた原稿は、日時を考慮して編集委員会によりアレンジすることがありますのでご了承下さい。

☆第2回土曜の集いは15日!!

日本協会普及指導部による市民ハンドボール企画「第2回土曜の集い」は5月15日午後5時から7時まで東京・青少年総合センター体育館（電四六七―七二〇一）で開かれます。参加料一人百円。

会場は京王帝都バスの新宿西口から渋谷東横前行き、渋谷西口から新宿京王百貨店行きでいずれも「代々木5丁目」下車、2分。

車利用のかたは、首都高速4号線代々木ランプが目標。

ほかに地下鉄千代田線「代々木公園」、小田急「参宮橋」下車も。

☆北海道協会の日程

▽第3回全道学生春季リーグ（5月上旬、旭川教大）▽全道高校選手権（6月23、24日　函館市民体育館）▽第5回全道中学生大会（8月初旬、札幌の予定）▽国体道予選（8月27～29日、札幌中島スポーツセンター）▽全道学生秋季リーグ（10月下旬、釧路教大）▽第16回全道室内選手権（12月24～26日室蘭市民体育館）

☆関東学生春季リーグ日程

4月24日に開幕しましたが、5月の日程（男子及び女子各1部）は次のとおりです。

▽6日　東女×学芸、日体×日女体、中×慶、早×教、法×芝、日体×明（駒沢体育館）▽7日、学芸×日女、東女×教(駒沢体育館)▽13日、東女×教、学芸×日女、早×芝、中×明、法×教、日体×慶（駒沢屋内球技場）▽14日　日体×学芸(女)、教×日女体、明×教、慶×芝、日体×早、中×法（駒沢屋内球技場）▽18日　教×日女、日体×学芸(女)、慶×教、明×芝、日体×法、中×早（駒沢体育館）、▽21日　東女×日体、学芸×教(女)(駒沢体育館)、▽22日（最終日）東女×日体(女)、芝×教、明×慶、早×法、中×日体（駒沢屋内球技場）

☆「ジュニアハンドボールブック」好評発売中

年少者に向けたイラスト入りのハンドボールガイドブック。日本協会普及指導部編で、好評発売中です。1部100円(ほかに送料200円)日本協会へお申しこみ下さい。

☆クラブをつくり、ハンドボールを楽しみませんか・大阪

大阪社会人連盟は、男女、年令をいっさい問わず、もちろん登録の有無も関係なしの「クラブ」「町のチーム」による対抗戦(リーグ)を行っています。

あなたも、友人を誘って、是非このリーグへ加盟して、試合（20分ハーフ）を楽しんで下さい。

体育館使用料などのため、一クラブ年額一万五千円程度の分担金が必要ですが、分納（2期）も認めます。

5、6、7月のスケジュールは次のとおりです。

・5月19日(水)と20日(木)
・6月4日(金)と18日(金)
・7月9日(金)と16日(金)

いずれも午後6時20分から8時45分まで。会場は大阪市立東淀川体育館(〇六―三二一―〇〇〇三)国鉄または地下鉄(御堂筋線)「新大阪」下車東へ。阪急京都線「崇禅寺」下車西へ。

この催しは、試合中心の企画で、今年度の日程は、一応来年3月まで、中途からの加盟もOKです。

大阪社会人連盟連絡先は大阪市立市岡東中学校（〇六―五八二一―八五八〇）の山中善之祐さん。

日本ハンドボール史編纂資料提供のお願い　第2回分

日本協会では「日本ハンドボール史」の編さんを近い将来手がけるため、読者各位からの資料提供をお待ちしていますが、ここに〈第2回〉分として次の6項目について資料・情報のご協力をお願いいたします。

◇　◇　◇　◇

①昭和10年7月22～24日東京・文部省体育研究所で行われた「ハンドボール講習会」の資料、写真

②日本送球協会の名で行われた最初の講習会といわれる昭和12年12月25～27日の「送球競技講習会」の資料、写真

③日本で最初の公式大会は昭和12年10月23日東京・文部省体育研究所で行われた「第1回関東選手権大会」と伝えられるが、この大会の資料（詳細な試合記録、プログラム）と写真

④、③で示した大会以前に「大会」が行われた記録をご存知のかた

⑤昭和3年に出口林次郎氏によって刊行された『ハンデバール』をおゆずり下さるかた

⑥日本で本格的にルールブックが発行されたのは昭和10～12年とみられますが、その「第1号」をおゆずり下さるかた（注・日本協会が発行した第1号を指すのではありません）

※資料提供などにあたっての条件はその都度協議することとします。

※項目の〈1回分〉は2月号（138号）31頁に掲載してあります

※第3回は8月号に掲載の予定です。

〼…読者の皆さまへ…〼第1回でご協力をお願いして以来、情報をいただいているのはほとんど、当時（大正11年～昭和11年）、陸上競技に関係されていたかたです。皆さまのお近くの陸上競技関係者に、是非、今回の主旨をお話し下さいませんか。

日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南1―1―1　03―467―7097）

各地の記録

1部は海自下総勝つ

▼千葉県実業団春季定期戦（4月　市原市・三井石油化学体育館）

▽1部

三井石油化学 23—14 丸善石油
海自下総 24—9 海自21空群
丸善石油 21—18 海自木更津
三井石油化学 25—10 海自21空群
海自下総 32—10 海自木更津
丸善石油 26—8 海自21空群
三井石油化学 31—12 海自木更津
海自下総 20—15 丸善石油
海自木更津 12（分）12 海自21空群
海自下総 22—20 三井石油化学

【順位】①海上自衛隊下総4戦全勝②三井石油化学千葉3勝1敗③丸善石油千葉2勝2敗④海自木更津航空補給所・海自21空群1分3敗

【2部順位】①出光千葉3勝1分②陸自第一ヘリ団2勝1分1敗③陸自下志津④陸自第一空挺団⑤日産石油化学

【3部順位】①東京電力千葉4戦全勝②ヤトロン3勝1敗③住友化学工業④東洋サッシ工業・陸自松戸

栃木女、水海道二など強し　教員は栃木が連勝

▼第2回北関東ハンドボール大会（4月、栃木・国学院高）

▽教員男子（リーグ）

茨城教員 19—12 群馬教員
栃木教員 42—18 群馬教員
栃木教員 29—19 茨城教員

【順位】①栃木②茨城③群馬

▽高校男子A・リーグ

麻　生（茨）13—12 菖　蒲（埼）
富　岡（群）18—3 国学院栃木
富　岡 11—10 麻　生
麻　生 13—9 国学院栃木
富　岡 9—5 菖　蒲
国学院栃木 17—15 菖　蒲

【順位】①富岡②麻生③国学院栃木④菖蒲

▽同B・リーグ

川口工（埼）14—7 馬　頭（栃）
川口工 15—12 吉　井（群）
馬　頭 10—8 笠　間（茨）
笠　間 12—12 吉　井
馬　頭 12—12 吉　井
川口工 17—6 笠　間

【順位】①川口工②馬頭③笠間④吉井

▽同女子A・リーグ

栃木女（栃）12—5 麻　生（茨）
栃木女 12—4 深谷一（埼）
深谷一 9—6 前橋市女（群）
麻　生 12—7 深谷一
麻　生 16—13 前橋市女
栃木女 6—3 前橋市女

【順位】①栃木女②麻生③深谷一④前橋市女

▽同B・リーグ

水海道二（茨）8—6 国学院栃木
小山城南（栃）9—1 群馬女短付
国学院栃木 8—4 小山城南
水海道二 10—4 群馬女短付
国学院栃木 13—6 群馬女短付
水海道二 16—7 小山城南

【順位】①水海道二②国学院栃木③小山城南④群馬女短大付

▼第7回刈谷（愛知）市長杯大会（4月、豊田工機）

▽男子準々決勝

トヨタ車体 27—6 豊田工機
刈谷工高 11—2 刈谷ク
豊田自動織機 14—6 刈谷北高
ファイターズ 26—9 日本電装

▽同準決勝

トヨタ車体 27—4 刈谷工高
ファイターズ 21—14 豊田自動織機

▽同決勝

トヨタ車体 18（10—2　8—6）8 ファイターズ

▽女子準決勝

豊田工機 25—1 刈谷OGク
キャッツ 19—1 刈谷北高

▽同決勝

キャッツ 12（6—4　6—2）6 豊田工機

「高専部」のメンバー決まる

日本協会普及指導部は、決定の遅れていた高専部プロジェクトチームのスタッフ5名を次のように決めた。

橋本哲雄（長岡、リーダー）、豊島慶男（秋田）、寺沢猛（豊田）、大原康昇（明石）、富樫栄（宇部）

投書欄　明日への提言

女性審判のための講習会を

審判関係のいろいろな催しが実施されているようですが、一つ希望を述べさせて下さい。

それは、女性だけの特別講習会を是非開いていただきたいのです。

もちろん、現行の各講習会も女性が参加してはならない規定があるわけではありませんが、やはり、男子が圧倒的に多いなかへ加るのは、難しいのです。

また、教育系大学を卒業したOGが多くなり、女子ハンドボール指導者の数も、年々増えていますので、女性指導者の技術講習会もOGが、選手生活を終えるとハンドボール界から去ってしまう傾向が強いのを食い止めるためにもお願いしたいと思います。

考慮していただければと考えます。

こうした催しによって、OGが、いつまでもハンドボール界に接触していけると思いますし女子試合を、女子役員だけで管理することも、ゆくゆくは可能になるでしょう。

【大阪・匿名希望】

◇……「明日への提言」への投稿は500字以内、タテ書き（用紙自由）でお願いします。

★編集後記

□……気をもんだオリンピックアジア予選。

試合前は、無気味さを感じ、第1戦終了後は、かえって2点差が気がかりという、なんとも重苦しい空気が、日本協会を包んでいました。

選手団はもちろんのこと、居残っていた関係者も「アウエイ（乗りこみ）」の心労を、今度ばかりは、イヤと云うほど思い知らされたものでした。

□……普及指導部の〝土曜の集い〟。大きな反響のなかでスタートしました。

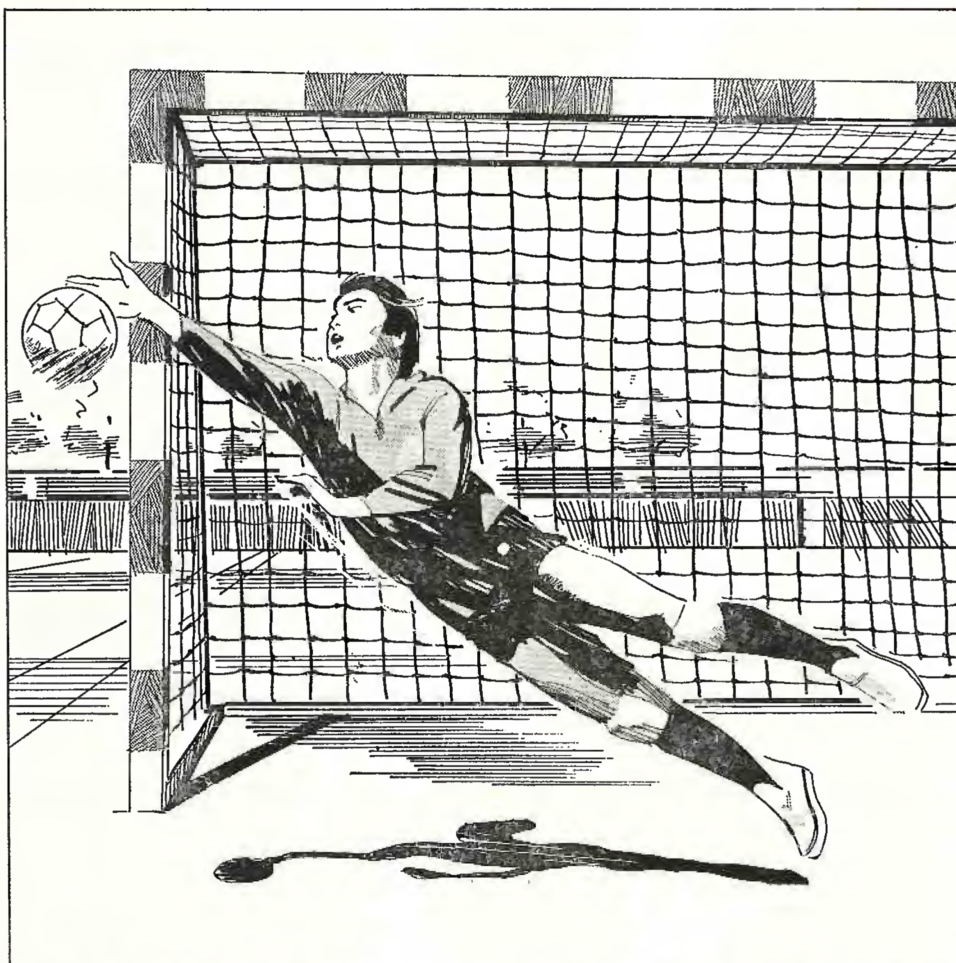
一日も早く、全国いっせいに土曜の夕べは、ハンドボールの集いが各地で開かれている、という理想に近づけたいものです。

□……何ごとも第1回というのは好結果を得るのですが、回を重ねると、随性にまかせ思わぬおとし穴にはまります。

ミュンヘンの時は、「36年ぶり」「初出場」ということで採点の甘かった全日本の周囲も、今回は、厳しい視線を各角度から感じます。

土曜の集いも、2回目以後が勝負でしょう。

それらを乗り切るのは、すべて皆さんの力ということになると思うのですが—　（S）



堅実な守り・・・確かな勝利。

もし、ブラザーという企業をプレイヤーにたとえたとしたら、それは静かな闘志を内に秘めた、シャープなゴールキーパー。――はげしい企業競争の中でブラザーがひとつの地位を得ているとすれば、そんな精神があらゆる処で顔を出しているのかもしれません。

BROTHER
ブラザー


ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一四一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五一年四月二十五日印刷 昭和五一年五月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷[illegible]一一一
電話 大代表(四〇)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百八十円(年間購読料二千七百円)